

# みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 1,037人(令和2年7月20日現在)

アンケート回答者数 547人(回収率52.7%)

調査実施期間 令和2年7月下旬～9月下旬

アンケート回答者属性

男女構成

男性	女性	不明
135	412	0

同居未成年家族の有無

あり	なし	不明
125	419	3

新規・継続の別

新規	継続	不明
11	535	1

年代別内訳

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
8	21	65	95	144	168	45	1

宮城県の居住期間

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
7	11	41	487	1

年代別アンケート回収率

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
21.1%	33.3%	46.8%	51.6%	56.0%	64.9%	49.5%

※「同居している未成年家族の有無」は、以下「未成年家族の有無」と記載する。

※端数を四捨五入しているため、割合(%)の合計とその内訳が一致しないことがある。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合(%)で示した。

※男女別、年代別、未成年家族の有無別の有意差(統計上、偶然であるとは考えにくい差)については、有意水準5%で有意差検定を行っている。なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

※「新規・継続の別」は、新規モニター(今回初めてアンケート対象者となった方)と継続モニター(新規モニター以外)の人数である。

## 《結果概要》

○回答者の55.5%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じているが、昨年度と比べて1.2ポイント減少した(問1)。

○食の安全性について、最も不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」となり、次いで「環境汚染物質」、「残留農薬」の順となった(問4)。

○安全で安心できる食品を供給するために重要だが十分に行われていないと認識されている取組は、「生産者の取組への支援」及び「流通・販売段階における安全性の確保」であり、最もポイントが高かった(問5)。

○食の安全安心に係る信頼関係を確立するために重要だが十分に行われていないと認識されている取組は、昨年度と同様で「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であり、最もポイントが高かった(問6)。

○県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分満足」または「おおむね満足」とした回答者は58.3%であり、昨年度と比べて8.1ポイント増加した(問8)。

○食品中の放射性物質を気にしている回答者は64.8%となり、昨年度と比べ3.9ポイント減少した(問11)。

○食品中の放射性物質について、現在不安を感じているものは、昨年度と異なり「魚介類」が最もポイントが高く、次いで「きのこ・山菜類」、「野菜」の順となった(問14)。

○食品表示について知っていることは、「加工食品の「原材料名」欄は、使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている」が69.5%で最も回答者が多かった(問19)。

○「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について期待することは、「食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる」が74.8%で最も回答者が多く、次いで「食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する」(55.8%)となった(問20)。

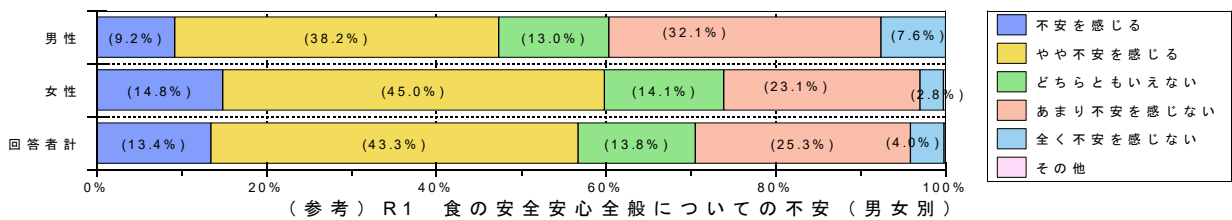
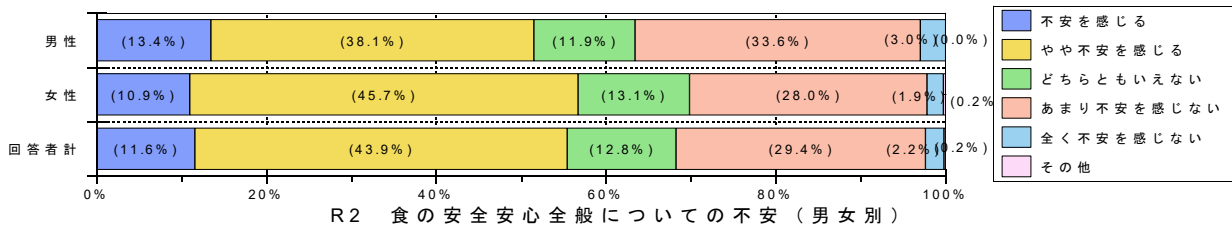
## 問1 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

- |              |             |             |
|--------------|-------------|-------------|
| 1 不安を感じる     | 2 やや不安を感じる  | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり不安を感じない | 5 全く不安を感じない | 6 その他       |

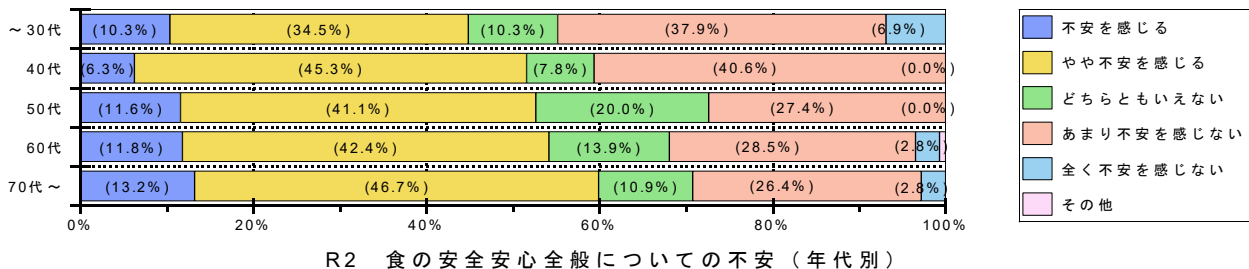
食の安全安心全般について、「不安を感じる」(11.6%)、「やや不安を感じる」(43.9%)を合わせて55.5%の回答者が不安を感じており、昨年度と比べ1.2ポイント減少している。

また、「あまり不安を感じない」(29.4%)、「全く不安を感じない」(2.2%)を合わせて31.6%の回答者が不安を感じておらず、昨年度と比べ2.3ポイント増加した。

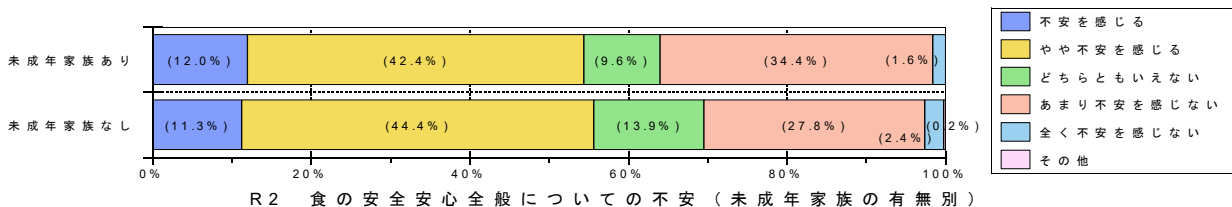
男女別では、有意差は見られない。



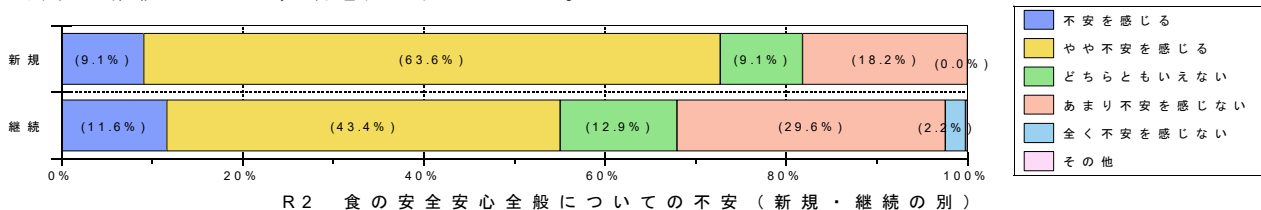
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

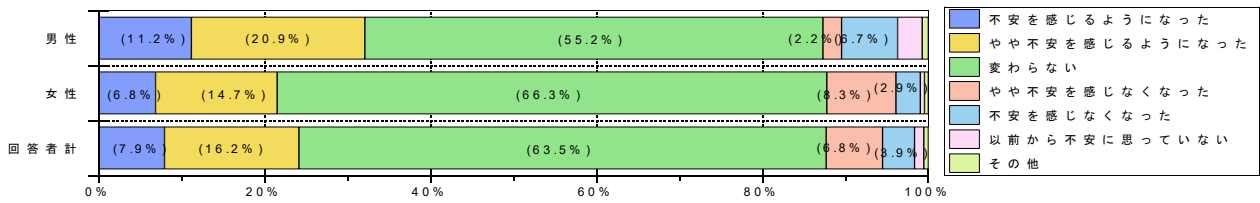


問2 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

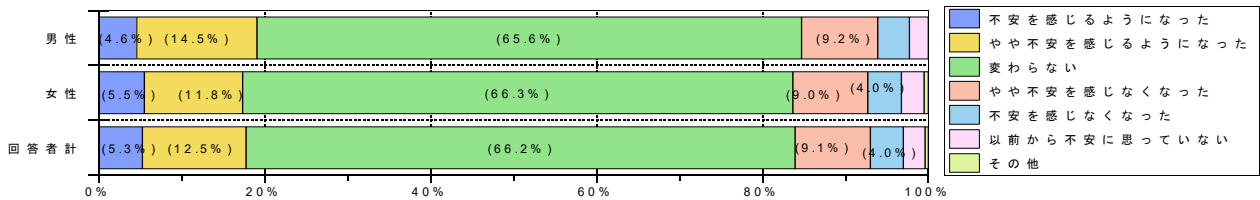
- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった |
| 3 変わらない        | 4 やや不安を感じなくなった   |
| 5 不安を感じなくなった   | 6 以前から不安に思っていない  |
|                | 7 その他            |

「不安を感じるようになった」(7.9%)、「やや不安を感じるようになった」(16.2%)を合わせた24.1%が何らかの不安を感じるようになっており、昨年度に比べ6.3ポイント増加した。また、「やや不安を感じなくなった」(6.8%)は昨年度に比べ2.3ポイント減少し、「不安を感じなくなった」(3.9%)は昨年度に比べ0.1ポイント減少した。

男女別では、「変わらない」、「やや不安を感じなくなった」、「不安を感じなくなった」の項目で優位が見られ、「変わらない」、「やや不安を感じなくなった」の項目では女性の回答割合が高く、「不安を感じなくなった」の項目では男性の回答割合が高い。

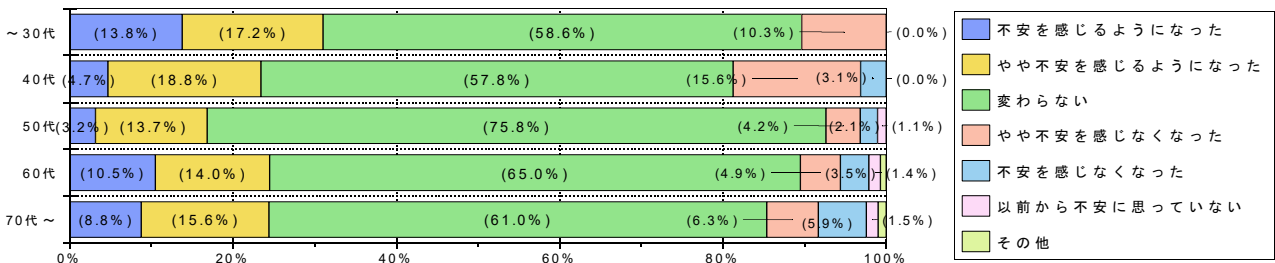


R2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)



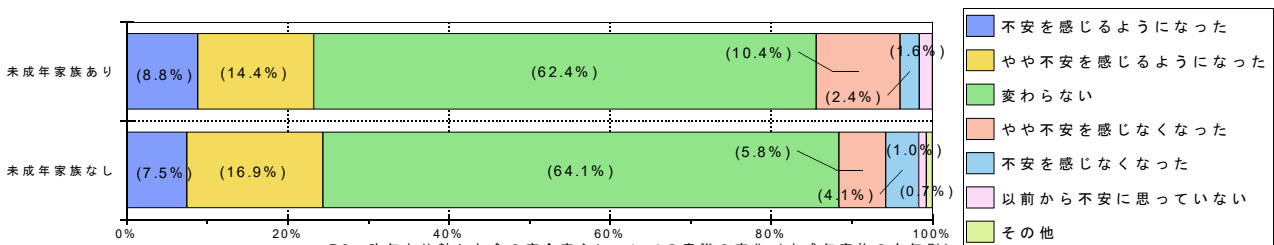
(参考) R1 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)

年代別では、有意差は見られない。



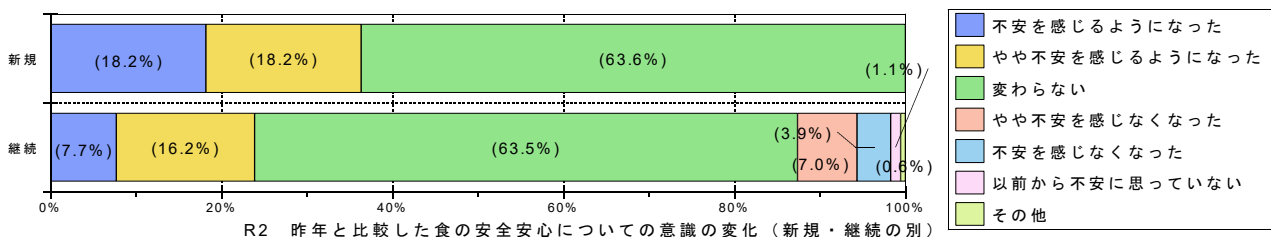
R2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



R2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (未成年家族の有無別)

新規・継続の別では、有意差は見られない。



R2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (新規・継続の別)

問3 問2で、意識の変化があったと回答した方にお聞きします。意識が変化した理由は何ですか。自由にお書きください。

計124件の記述回答があり、問2で選んだ選択肢毎に、理由の概要、主な内容を下表にまとめた。

問2で「1 不安を感じるようになった」「2 やや不安を感じるようになった」と回答した方の主な理由は、「新型コロナウイルスについて」、「輸入食品について」、「異常気象について」であった。

問2で「4 やや不安を感じなくなった」、「5 不安を感じなくなった」と回答した方の主な理由は、「放射性物質について」、「セミナー・モニターだよりについて」、「情報が増えたことについて」であった。

	理由の概要	主な内容
1 又 は 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスについて (38)</li> <li>・輸入食品について (9)</li> <li>・異常気象について (9)</li> <li>・食品表示について (6)</li> <li>・放射性物質について (6)</li> <li>・残留農薬について (4)</li> <li>・食糧自給率について (3)</li> <li>・遺伝子組換え食品について (2)</li> <li>・食品添加物について (2)</li> <li>・その他 (19)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品にもコロナウイルスが付着しているのではないかと不安だから。</li> <li>・食品への菌の付着も心配であるから。</li> <li>・コロナ禍で生活が様変わりし、今後、食文化がどのように変化していくのか不安になったから。</li> <li>・中国産を多く見るようになったから。</li> <li>・野菜・肉類に外国産が多くなったから。</li> <li>・異常気象の影響により、野菜や海産物の市場に出回る収穫量が大きく変化しているから。</li> <li>・年々自然災害が増え、それに伴う農業などの被害も大きくなるから。</li> <li>・スーパーなどで表示ミスがあったり、産地などが不明な品もあるから。</li> <li>・東京電力福島第一原発の汚染水放出のことが心配であるから。</li> <li>・コロナ禍で消費者が食料の買い占めをしてしまったから。</li> <li>・ゲノム編集や遺伝子組換え食品が知らぬ間に流通してしまうから</li> <li>・環境が汚染され、食に対する安全性が疑われるから。</li> <li>・例年より貝毒が多かったから。</li> <li>・いままであまり意識していなかったが、食品表示ウォッチャーをしてから少し目線が変わったから。</li> <li>・食の安全安心に対する考え方が年齢とともに変わったと思うから。</li> </ul>
4 又 は 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質について (7)</li> <li>・セミナー・モニターだよりについて (4)</li> <li>・情報が増えたことについて (4)</li> <li>・食品の表示について (3)</li> <li>・その他 (8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線について、以前よりも気にならなくなったから。</li> <li>・店頭の商品に放射能表示が見受けられなくなったことで意識が薄れつつあり、不安がやわらいできているから。</li> <li>・セミナー資料等を見ることで、食品表示等を見るようになったから。</li> <li>・食品について説明を聞いたり、説明書などを参考にし、自分なりの判断の目安を持つことができたから。</li> <li>・食品等々に詳細的確に表示されているので、やや不安感が薄れているから。</li> <li>・国産の食品が多くなった様にしたから。</li> <li>・おおむね食の安全安心に向けての取り組みが行われていると感じたから。</li> </ul>

問4 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。  
(5段階評価)

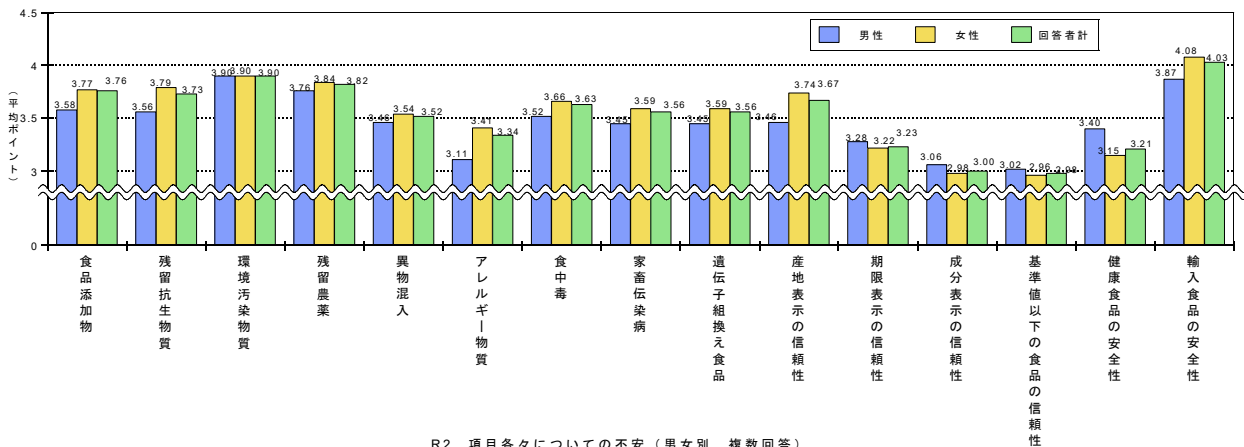
A 食品添加物について	B 残留抗生物質について	C 環境汚染物質について
D 残留農薬について	E 異物混入について	F アレルギー物質について
G 食中毒について	H 家畜伝染病について	I 遺伝子組換え食品について
J 産地表示の信頼性	K 期限表示の信頼性	L 栄養成分表示の信頼性
M 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	O 輸入食品の安全性	P その他

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

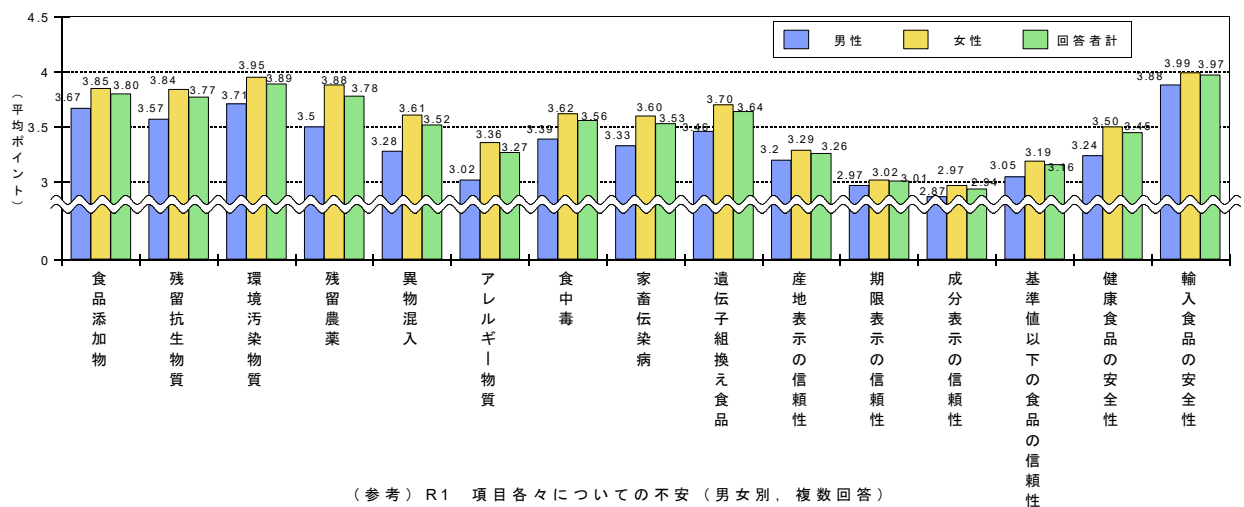
不安を感じている項目としては、「輸入食品の安全性」(4.03点)が最も高く、次いで「環境汚染物質」(3.90点)、「残留農薬」(3.82点)、「食品添加物」(3.76点)、「残留抗生物質」(3.73点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果では、「輸入食品の安全性」、「環境汚染物質」、「食品添加物」、「残留農薬」、「残留抗生物質」の順であり、今年度もおおむね同様の傾向となっている。

平成24年度から項目に加えた「放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性」に対する不安(2.98点)については、昨年度(3.16点)より1.8ポイント減少した。



※平均ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。



問5 安全で安心できる食品を供給するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

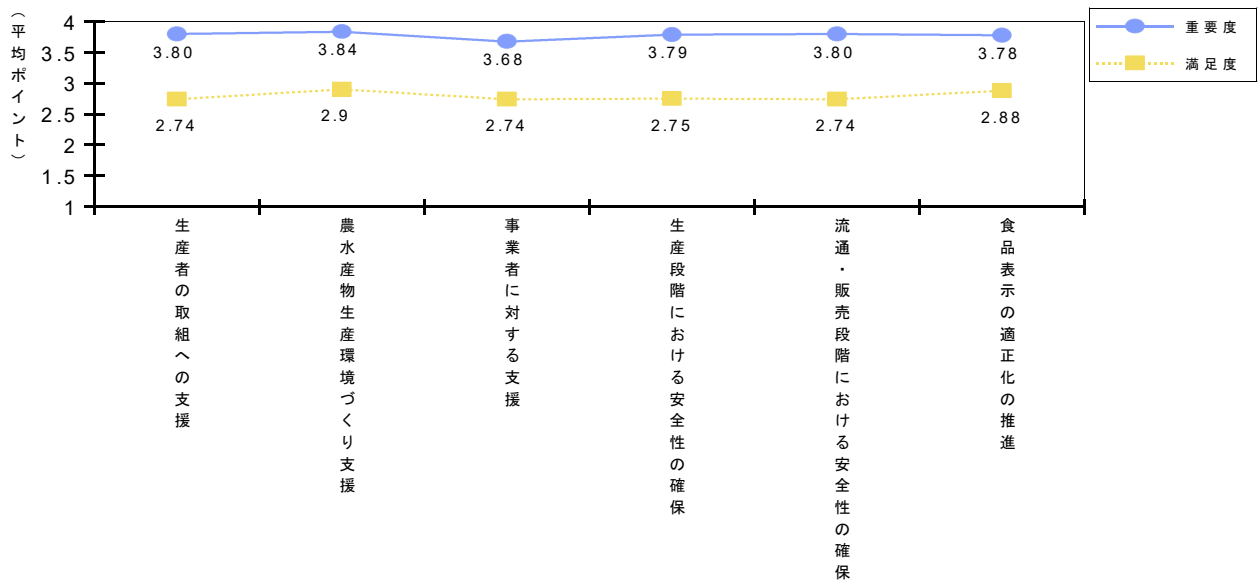
A 生産者の取組への支援	B 安全安心な農水産物生産環境づくり支援
C 事業者に対する支援	D 生産段階における安全性の確保
E 流通・販売段階における安全性の確保	F 食品表示の適正化の推進
G その他	

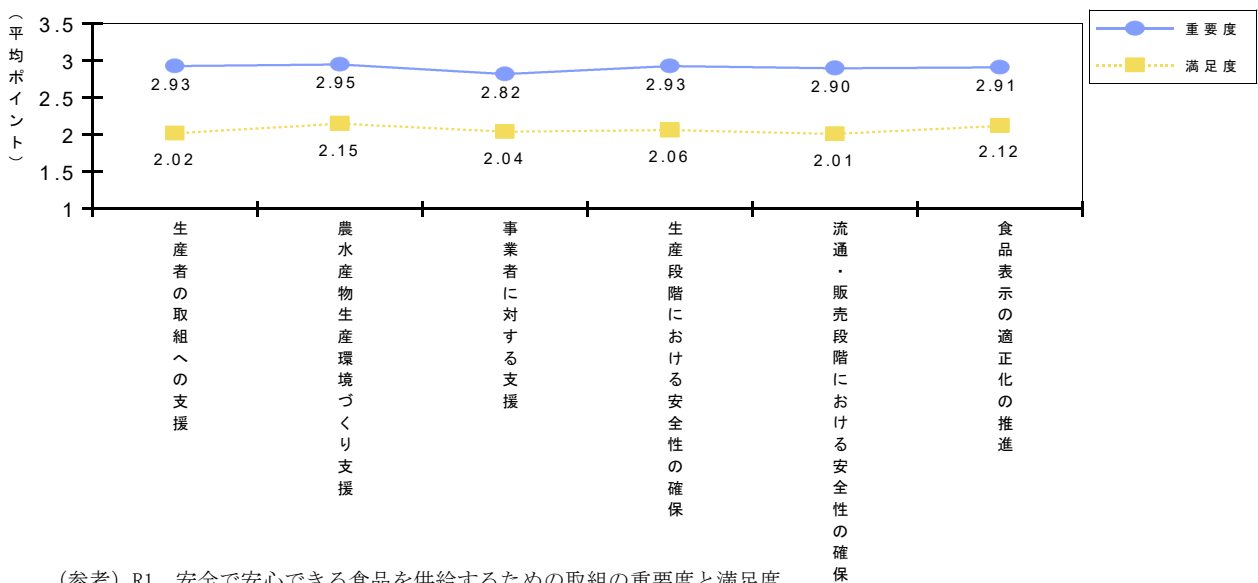
重要度	1 重要だと思う	2 やや重要だと思う	3 あまり重要だと思わない	
満足度	1 十分行われている	2 行われている	3 やや不十分である	4 不十分である

食の安全性を確保するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者の取組への支援」及び「流通・販売段階における安全性の確保」であった。

昨年度のアンケート調査結果では、「生産者の取組への支援」、「流通・販売段階における安全性の確保」、「生産段階における安全性の確保」の順であり、今年度もおおむね同様の傾向となっている。



R2 安全で安心できる食品を供給するための取組の重要度と満足度



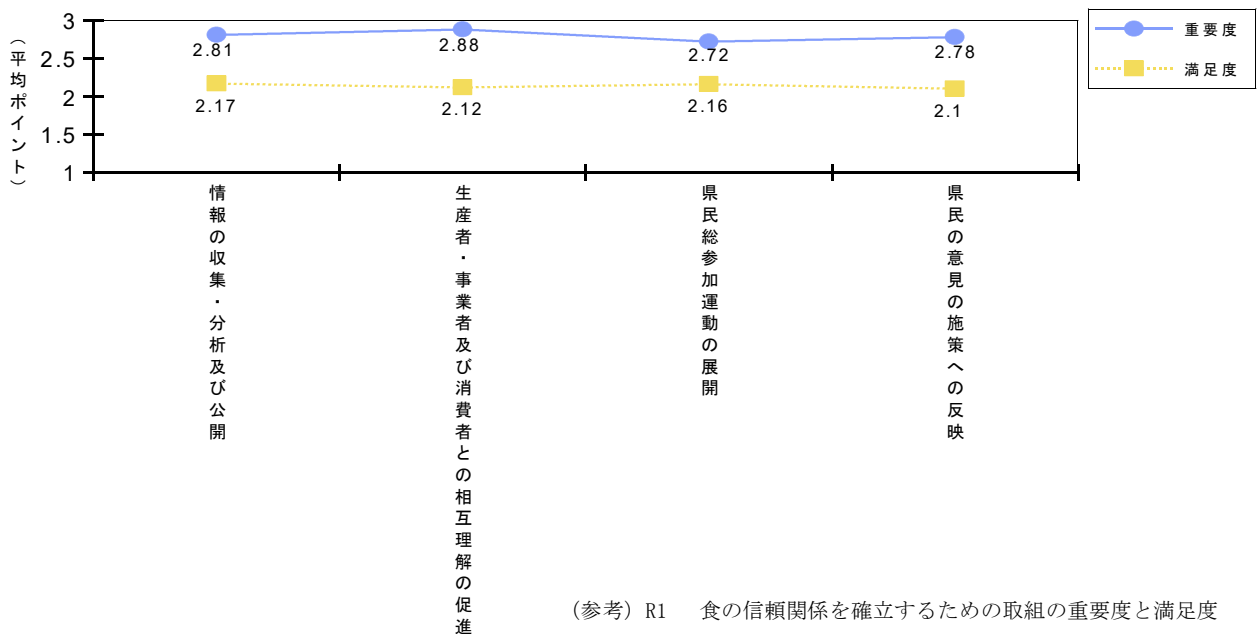
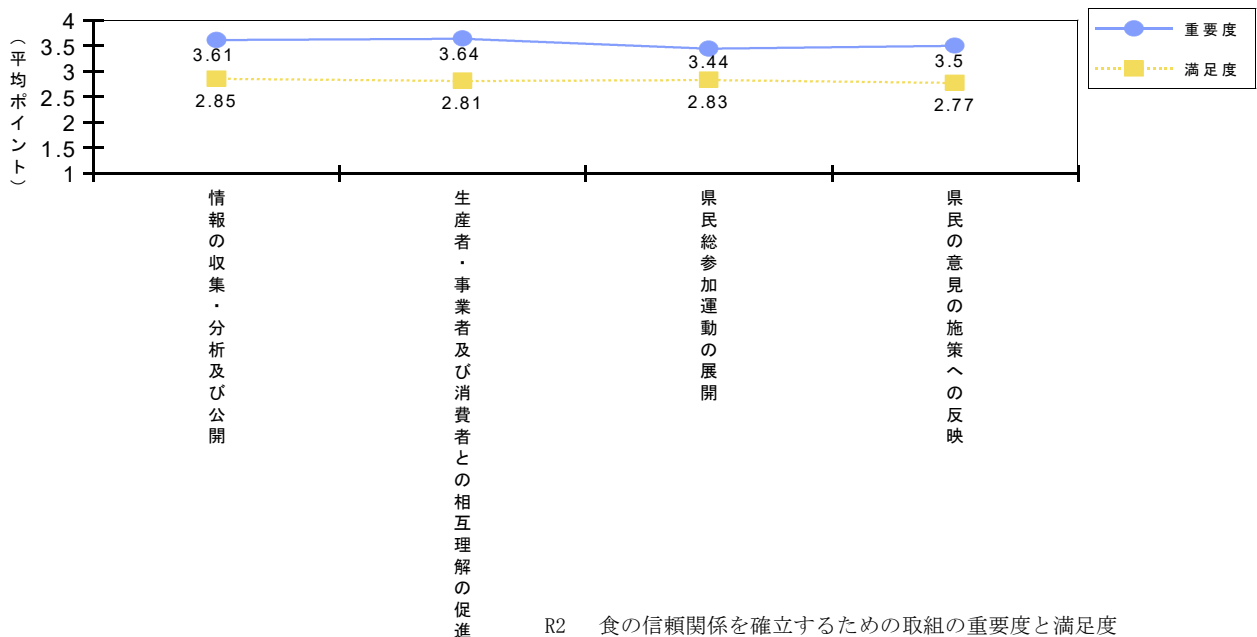
(参考) R1 安全で安心できる食品を供給するための取組の重要度と満足度

※今年度より平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を4点、「やや重要だと思う」「行われている」を3点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問6 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

	A 情報の収集, 分析及び公開	B 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進			
	C 県民総参加運動の展開	D 県民の意見の施策への反映	E その他		
重要度	1 重要だと思う	2 やや重要だと思う	3 あまり重要だと思わない		
満足度	4 重要だと思わない	1 十分行われている	2 行われている	3 やや不十分である	4 不十分である

食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていない（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」となった。次いで「情報の収集・分析及び公開」、「県民の意見の施策への反映」の順であり、おおむね昨年と同様の傾向であった。



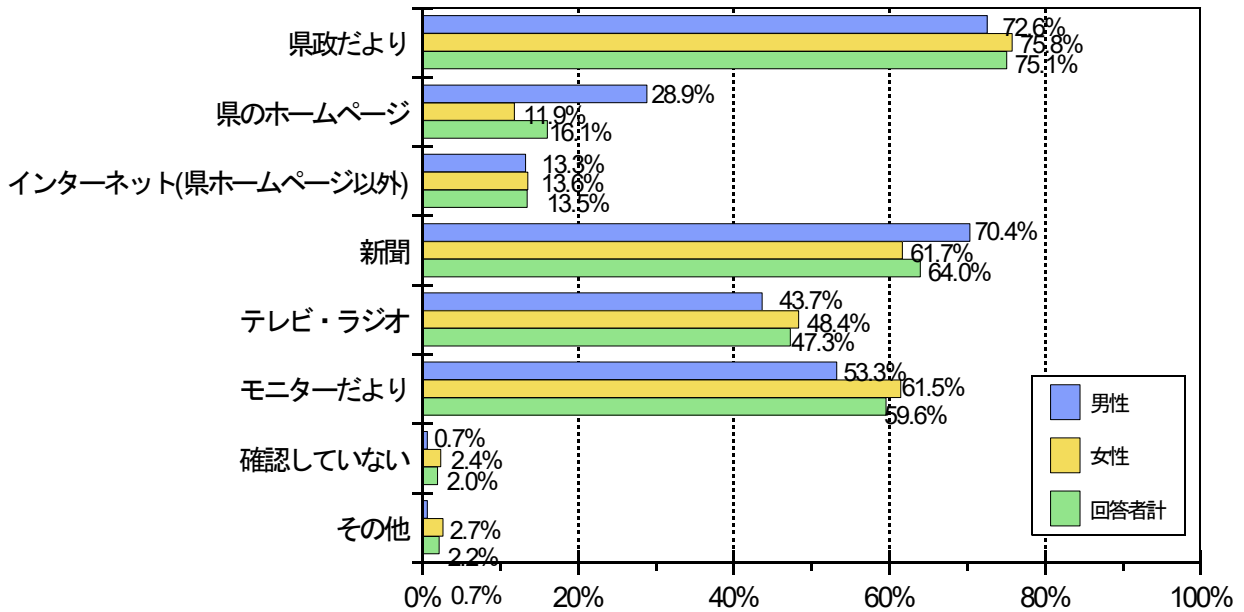
※今年度より平均ポイントは「重要だと思う」「十分行われている」を4点、「やや重要だと思う」「行われている」を3点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問7 どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。  
(複数回答)

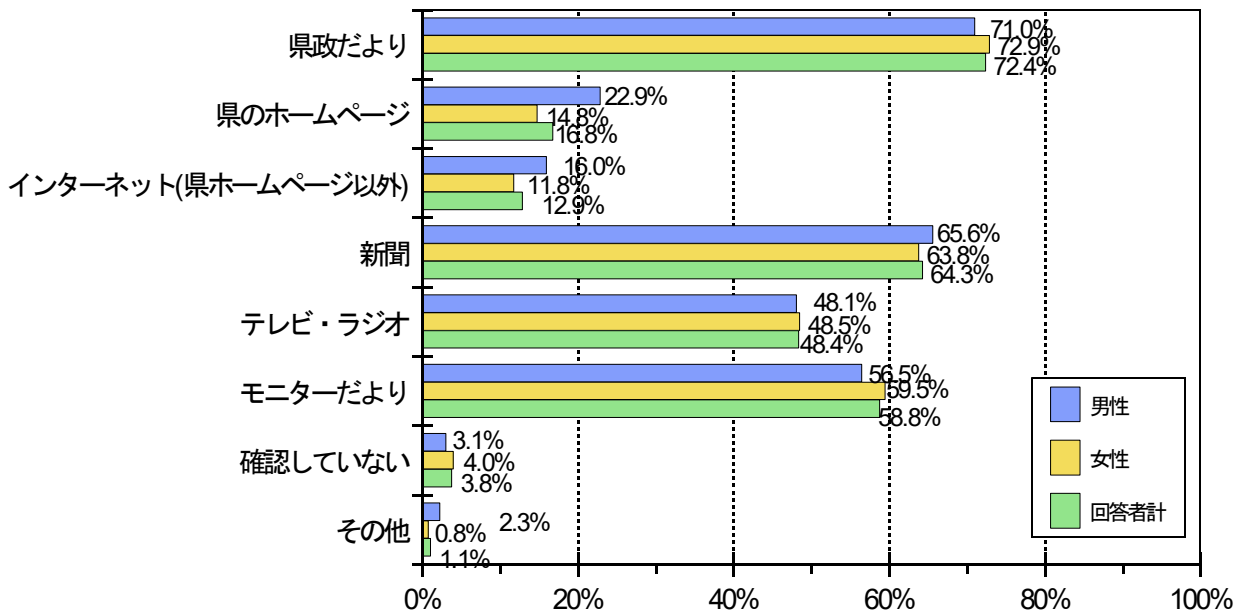
- |           |            |                      |
|-----------|------------|----------------------|
| 1 県政だより   | 2 県のホームページ | 3 インターネット(県ホームページ以外) |
| 4 新聞      | 5 テレビ・ラジオ  | 6 モニターだより            |
| 7 確認していない | 8 その他      |                      |

県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」(75.1%)が最も多く、次いで「新聞」(64.0%)、「モニターだより」(59.6%)の順となり、昨年と同様の傾向であった。

男女別では、「県のホームページ」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。



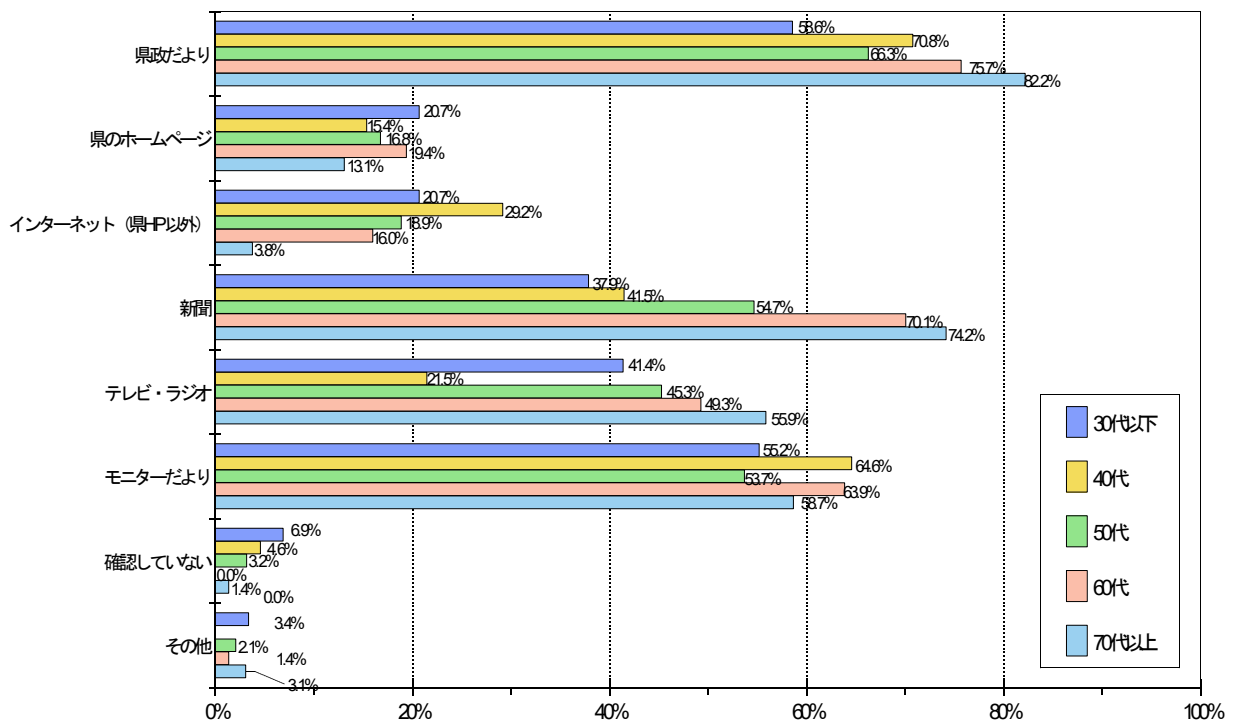
R2 県からの情報の確認方法 (男女別, 複数回答)



R1 県からの情報の確認方法 (男女別, 複数回答)

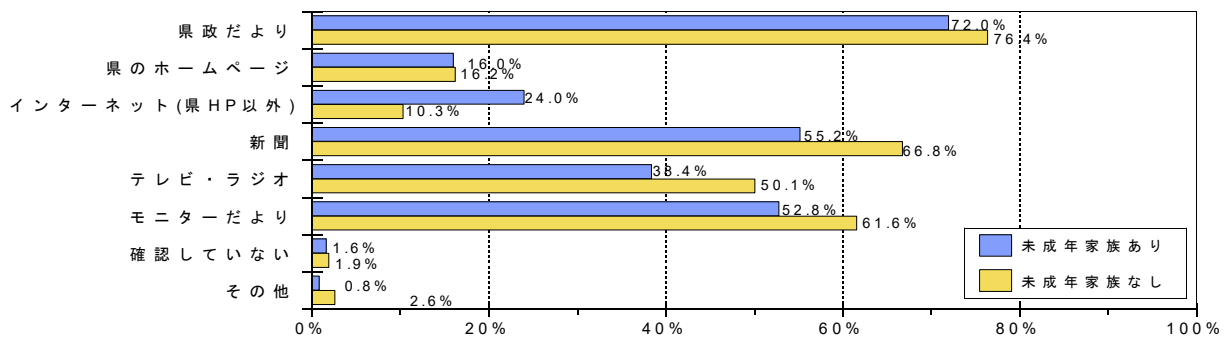


年代別では、「インターネット（県ホームページ以外）」の項目で有意差が見られ、40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また、「テレビ・ラジオ」の項目では、40代の回答割合が低い。「確認していない」の項目では30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



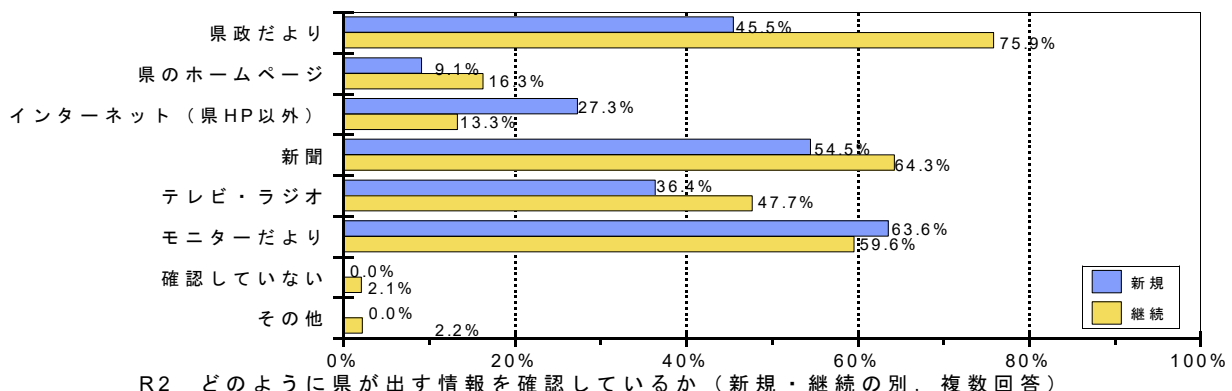
R2 どのように県が出す情報を確認しているか（年代別、複数回答）

未成年の家族の有無別では、「インターネット（県ホームページ以外）」の項目で有意差が見られ、「未成年家族あり」の回答割合が高い。



R2 どのように県が出す情報を確認しているか（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では、有意差は見られない。



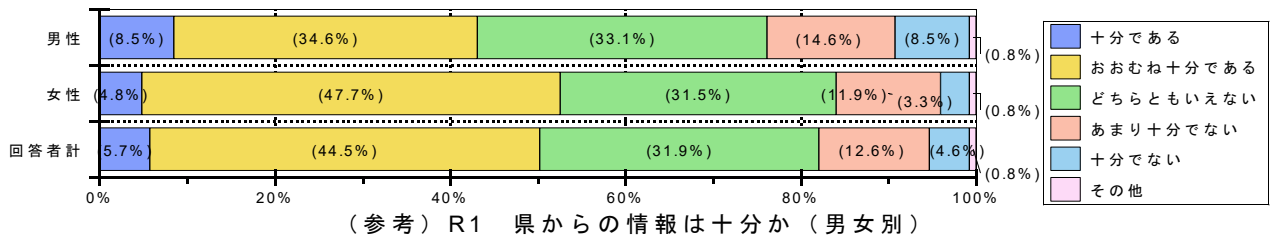
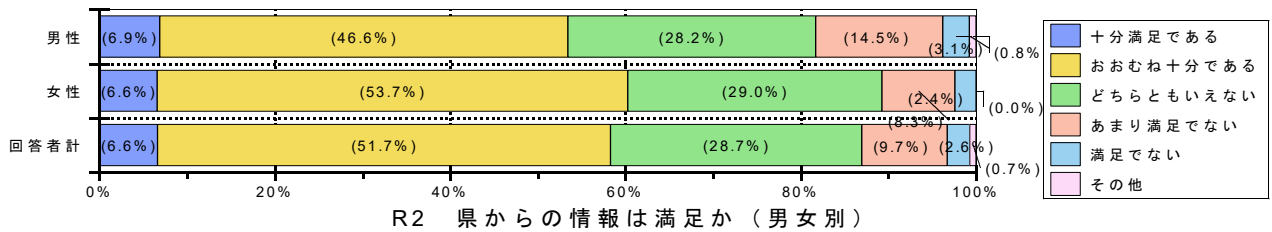
R2 どのように県が出す情報を確認しているか（新規・継続の別、複数回答）

問8 県からの食の安全安心に関する情報提供について、満足だと感じていますか。  
(単一回答)

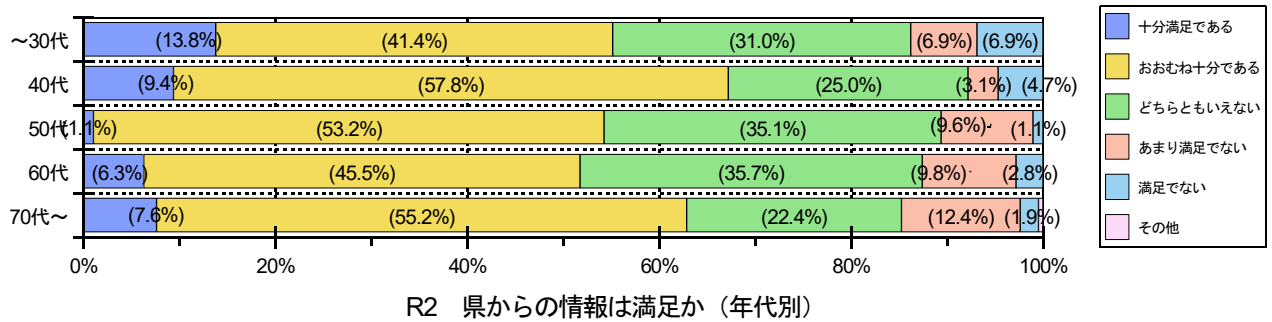
- |            |             |             |
|------------|-------------|-------------|
| 1 十分満足である  | 2 おおむね満足である | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり満足でない | 5 満足でない     | 6 その他       |

県からの情報提供については、「十分満足である」(6.6%)と「おおむね満足である」(51.7%)を合わせて58.3%となり、昨年度に比べ8.1ポイント増加した。

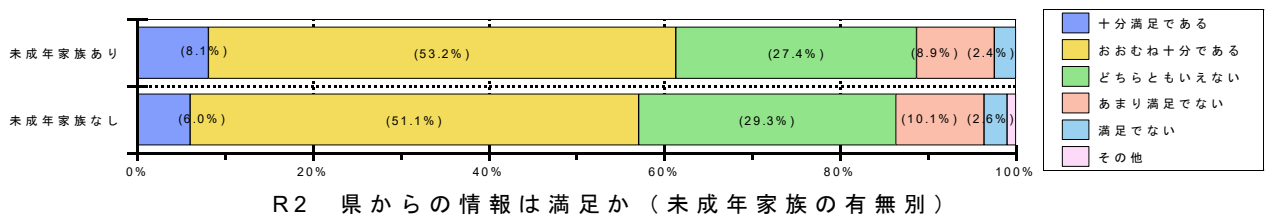
男女別では、有意差は見られない。



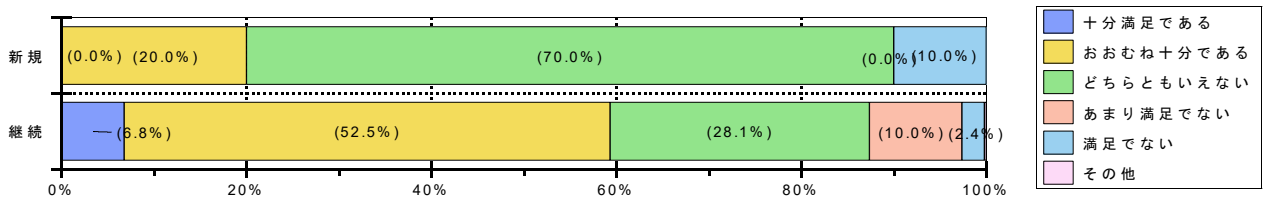
年代別では、「十分満足である」、「どちらともいえない」の項目で有意差が見られ、「十分満足である」の項目では50代の回答割合が低い。「どちらともいえない」の項目では、60代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では「十分満足である」、「おおむね満足である」、「どちらともいえない」の項目で有意差が見られ、「十分満足である」、「おおむね満足である」では継続モニターの回答割合が高く、「どちらともいえない」では新規モニターの回答割合が高い。



R2 県からの情報は満足か（新規・継続の別）

問9 問8の回答理由はなんですか。自由にお書きください。

計78件の記述回答があり、問8で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。

問8で「1 十分満足である」、「2 おおむね満足である」と回答した者の主な要望は、「幅広い情報提供」、「報告書等によるわかりやすい情報提供」であった。

問8で「4 あまり満足でない」、「5 満足でない」と回答した者の主な理由は、「情報量が少ない」、「意識しないと情報が得られない」、「県民全体に情報が伝わっていない」であった。

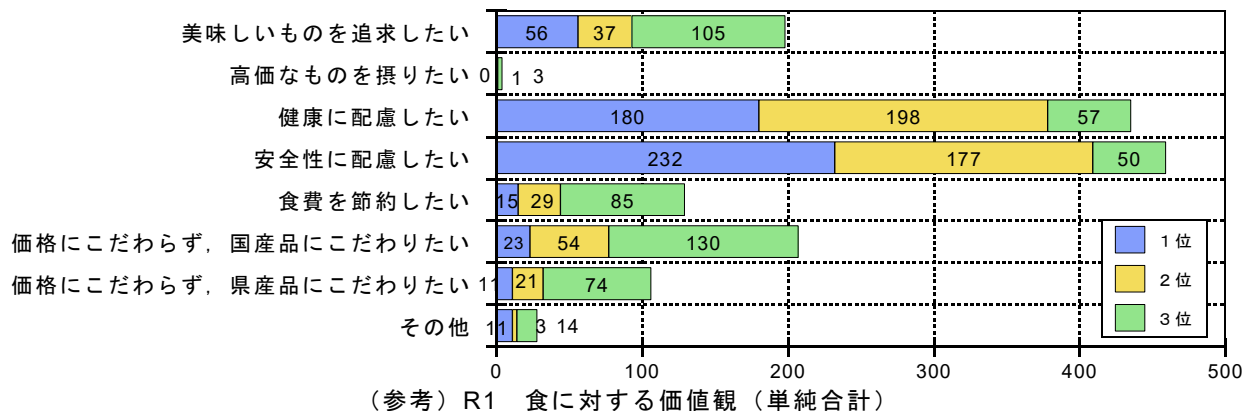
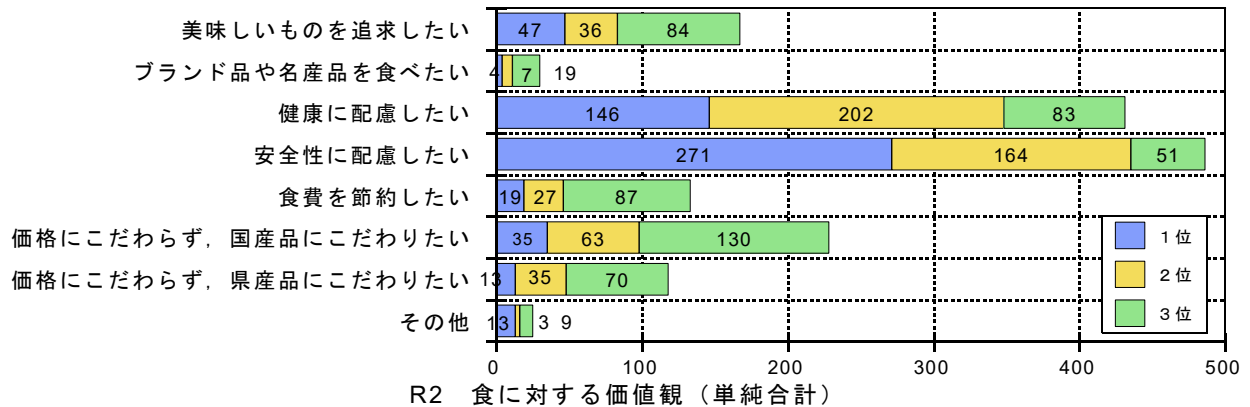
	理由	要望
1 及び 2	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し早めに幅広い情報を広く出してほしい。</li> <li>・その都度毎の報告も大切ですが、まとまった時点で起承転結の形で報告してもらいたい。</li> <li>・「食」は年齢相応に大事な問題なので恒例キャンペーンとして季節の物産食品をパッと紹介してほしい。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に情報量が少ないと思うから。</li> <li>・自分で意識しないと情報が得られないから。</li> <li>・専門的な言葉があったり、すぐに理解できない時があったから。</li> <li>・自分自身は消費者モニターとして講座へ参加する機会やお便り等で情報を得ているが、県民全般に行き渡っているかといえばそうでないと思うから。</li> <li>・モニターをやっているから情報が入ってくるが、周りの方々に聞くと同じ情報について知らない人が多くいるから。</li> <li>・情報提供がされているか分からないから。</li> <li>・食に関するニュースに接することが少ないから。</li> <li>・インターネットが利用できないため、入手できる情報には限界があるから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般消費者に確実に情報が届くように検討して欲しい。</li> <li>・新聞やテレビは多くの人々に周知するのに合っていると思うので、もっとこれらのメディアを利用して欲しい。</li> <li>・TV・ラジオ等のスポットをもっと活用していったら良いと思う。</li> <li>・意識の少ない人達にも理解度を上げられるような工夫が必要である。</li> <li>・無関心層への県産品の良さをアピールする手段をもうすこし広げて情報提供して欲しい。</li> <li>・15秒コマーシャルなど、目で見てわかるものがあると良い。</li> </ul>
4 及び 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供のツール・情報量が少ないから。</li> <li>・情報提供がいつどこでされているのかよく分からず、目にとまらないから。</li> <li>・情報を得るためには、積極的に意識して集めないといけないと思うから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供の回数を多くして欲しい。</li> <li>・詳しい情報を紙面にまとめて県民へ提供してもらいたい。</li> <li>・テレビ等で発信し、簡単に情報収集できる様にしてほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPやインターネットなどを使わないと知ることが難しいから。</li> <li>・情報提供のやり方が短期的でおおざっぱな印象を受けるから。</li> <li>・県政だよりやマスコミには目を通してはいるつもりだが、「食の安全・安心」についての情報露出度が少ないと感じるから。</li> <li>・食に関心があればチェックするが、そうでない消費者に周知されている気がしないから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県政便りの広告欄を減らしたり、カラーページを少なくして県民に伝える情報を増やしてほしい。</li> </ul>

問10 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。  
(優先度の高い順に3つ)

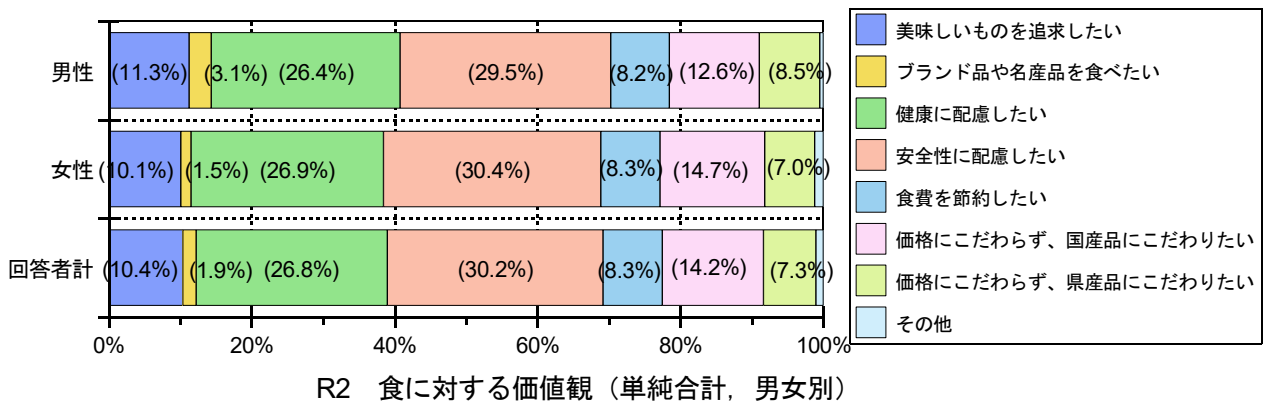
- |                       |                  |            |
|-----------------------|------------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい        | 2 ブランド品や名産品を食べたい |            |
| 3 健康に配慮したい            | 4 安全性に配慮したい      | 5 食費を節約したい |
| 6 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい |                  |            |
| 7 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 8 その他            |            |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(486人)、「健康に配慮したい」(431人)と回答する人が圧倒的に多く、次いで「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(228人)、「美味しいものを追求したい」(167人)、「食費を節約したい」(133人)の順であった。

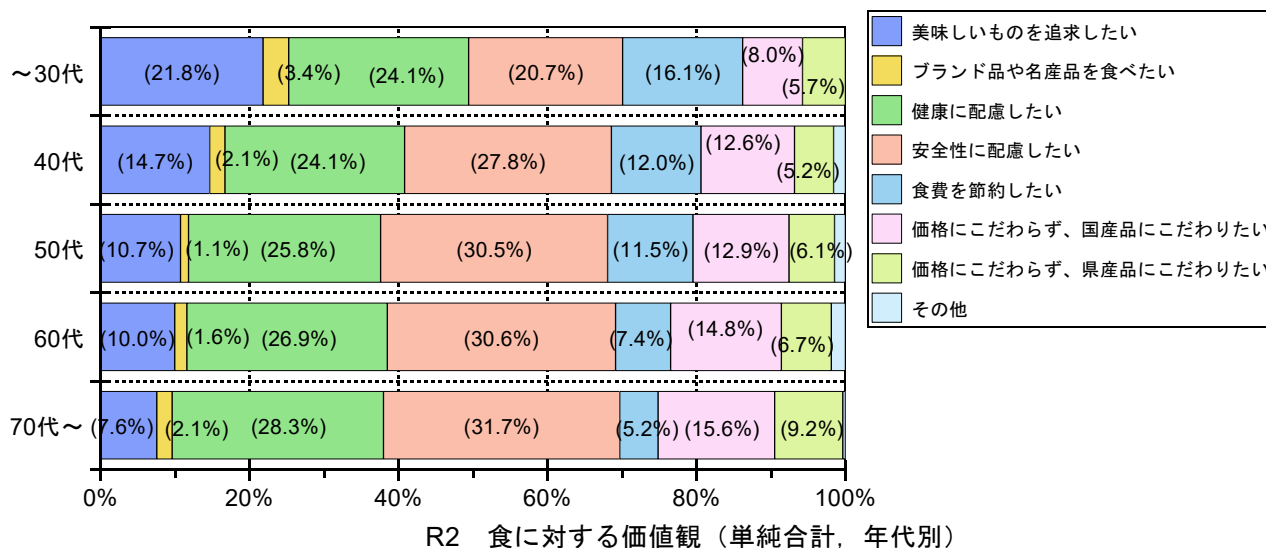
昨年度の結果と同様の傾向となっている。



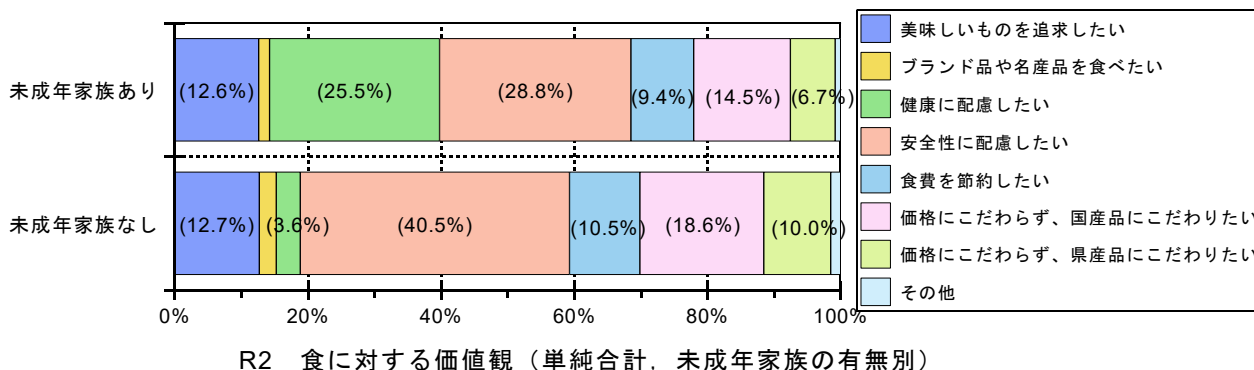
男女別では、有意差は見られない。



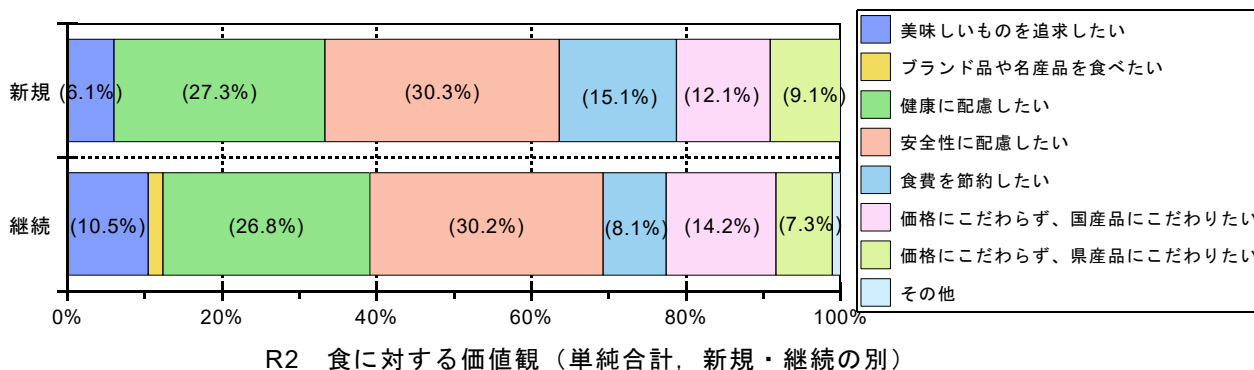
年代別では以下4つの項目で有意差が見られた。「美味しいものを追求したい」の項目では、30代以下・40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また「安全性に配慮したい」の項目では、30代以下の回答割合が低い。「食費を節約したい」の項目では、30代以下・40代・50代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目では、70代以上の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

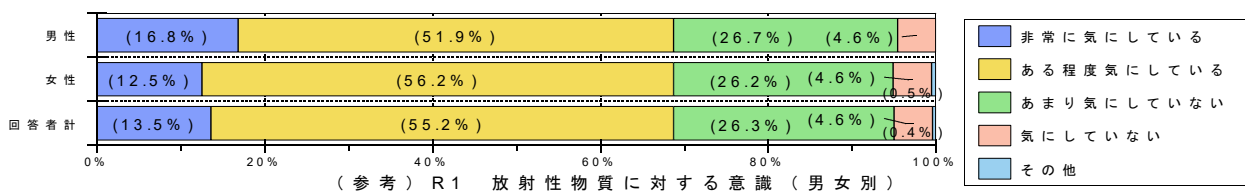
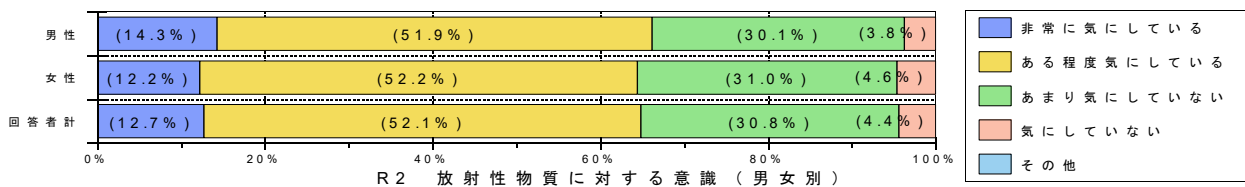


## 問 1 1 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

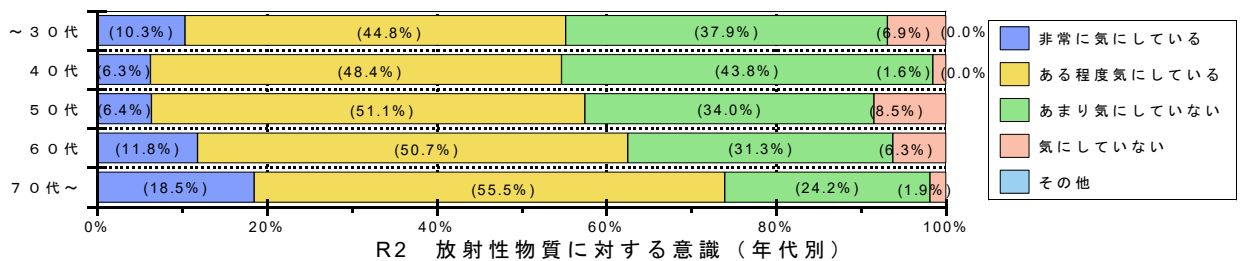
- 1 非常に気にしている      2 ある程度気にしている      3 あまり気にしていない  
4 気にしていない      5 その他

放射性物質については、「非常に気にしている」(12.7%)、「ある程度気にしている」(52.1%)を合わせた64.8%の回答者が気にしており、昨年度に比べ3.9ポイント減少した。また、「あまり気にしていない」(30.8%)、「気にしていない」(4.4%)を合わせた回答者は30.9%で、昨年度に比べ4.3ポイント増加した。

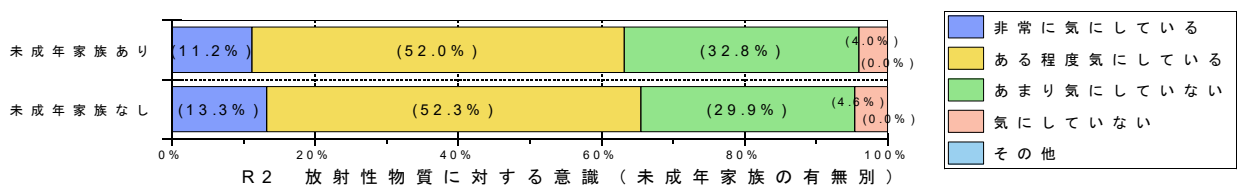
男女別では、有意差は見られない。



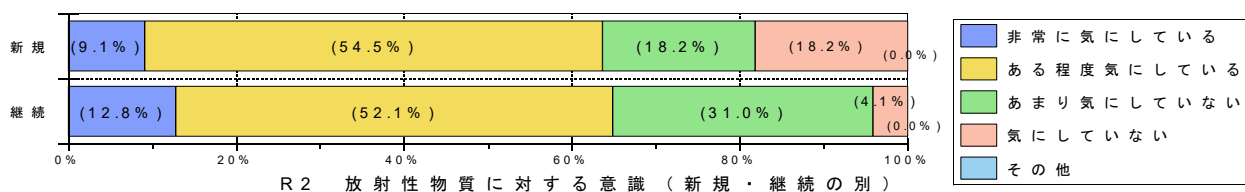
年代別では「非常に気にしている」、「あまり気にしていない」、「気にしていない」の項目で有意差が見られた。「非常に気にしている」の項目では40代、50代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。また「あまり気にしていない」の項目では40代、「気にしていない」の項目では50代の回答割合が高く、ともに70代以上の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



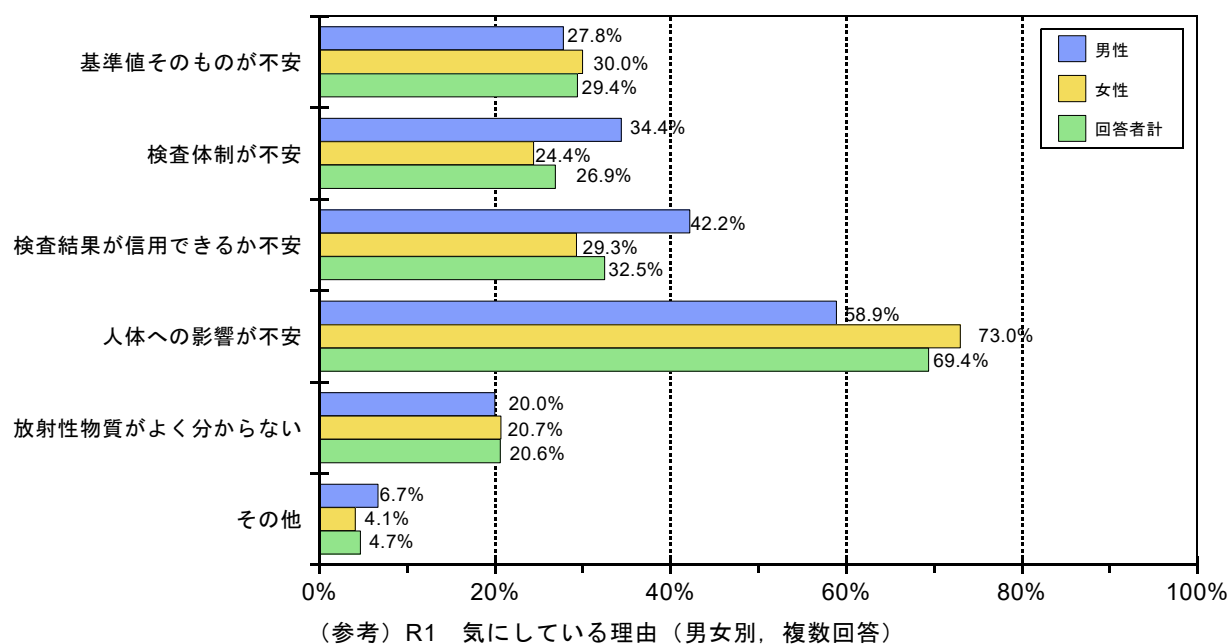
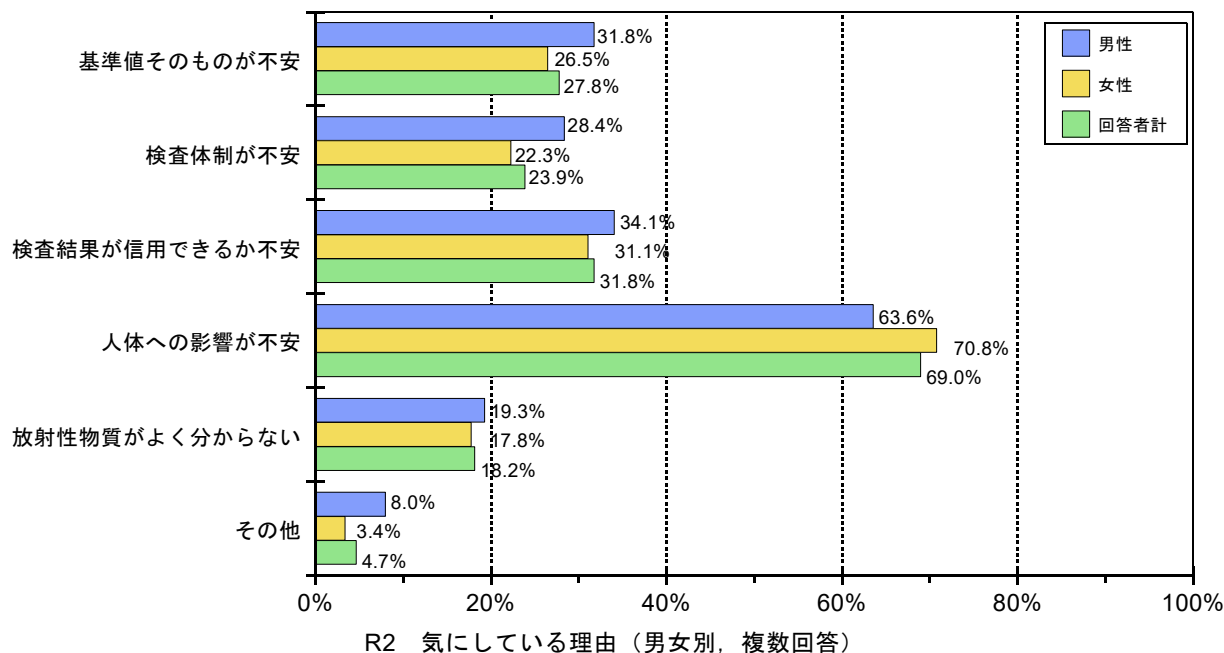
## 問12 気にしている理由は何ですか。(複数回答)

※問11で1「非常に気にしている」、または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 基準値そのものが不安だから             | 2 検査体制が不安だから            |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから |                         |
| 4 人体への影響が不安だから              | 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから |
| 6 その他                       |                         |

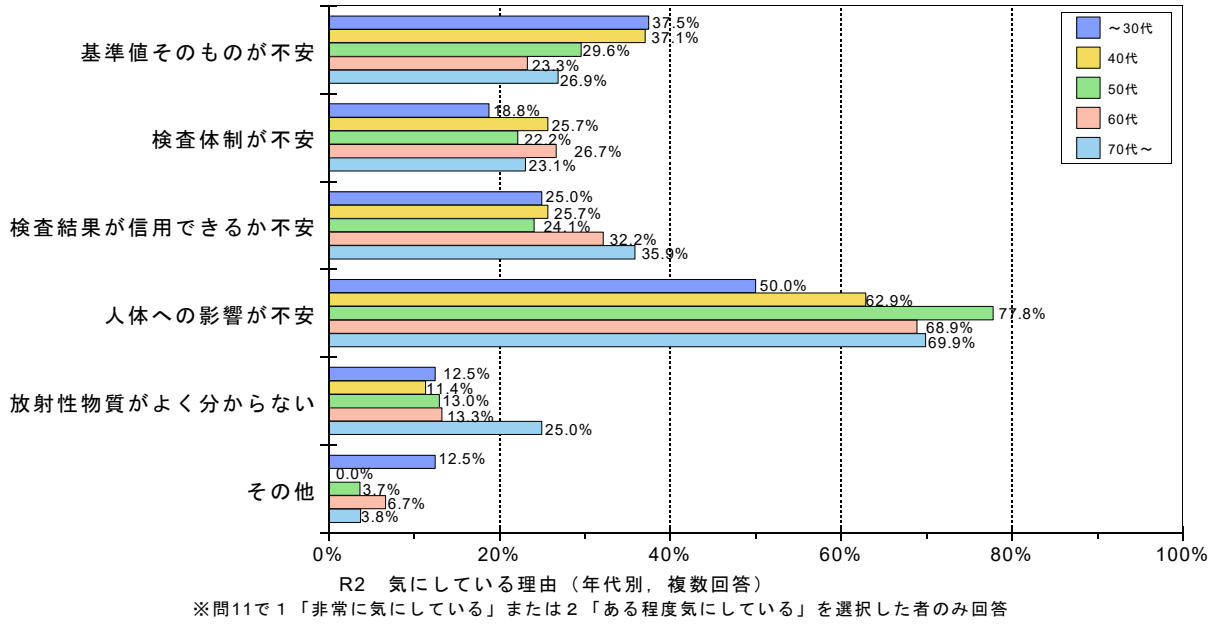
問11で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」(69.0%)が最も多く、次いで「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(31.8%)、「基準値そのものが不安だから」(27.8%)の順である。

男女別では、有意差は見られない。

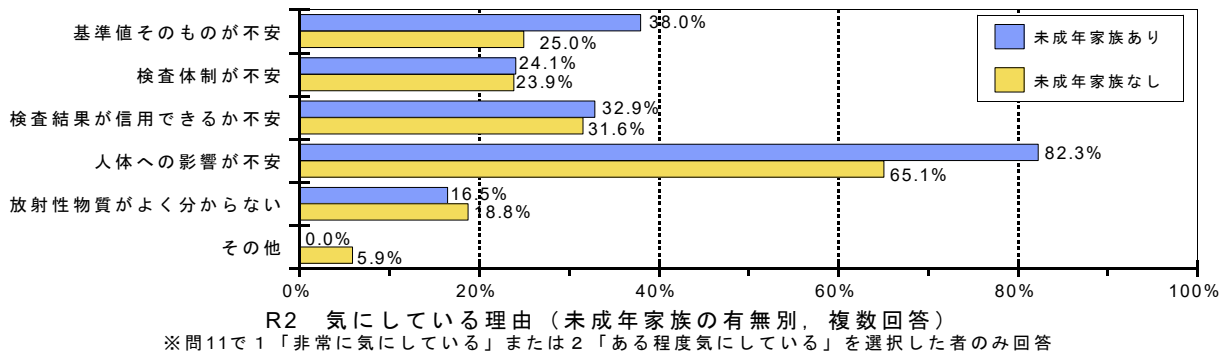




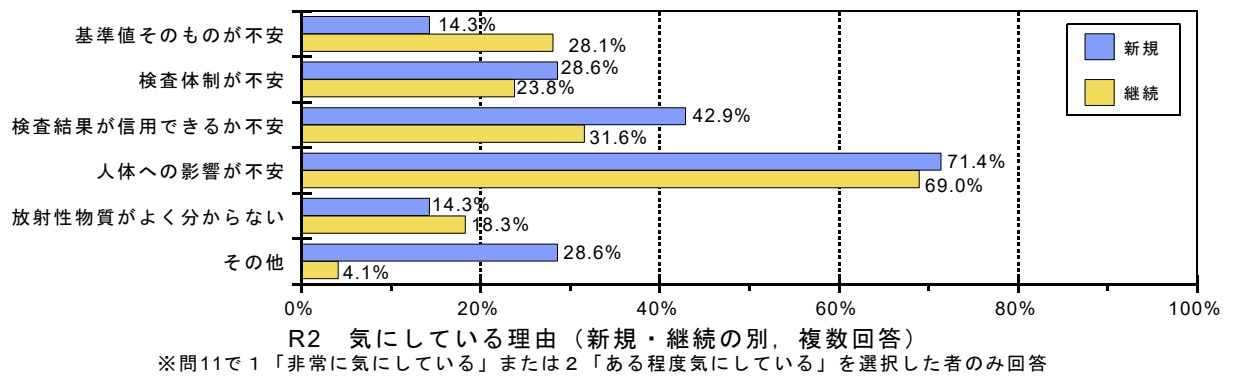
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



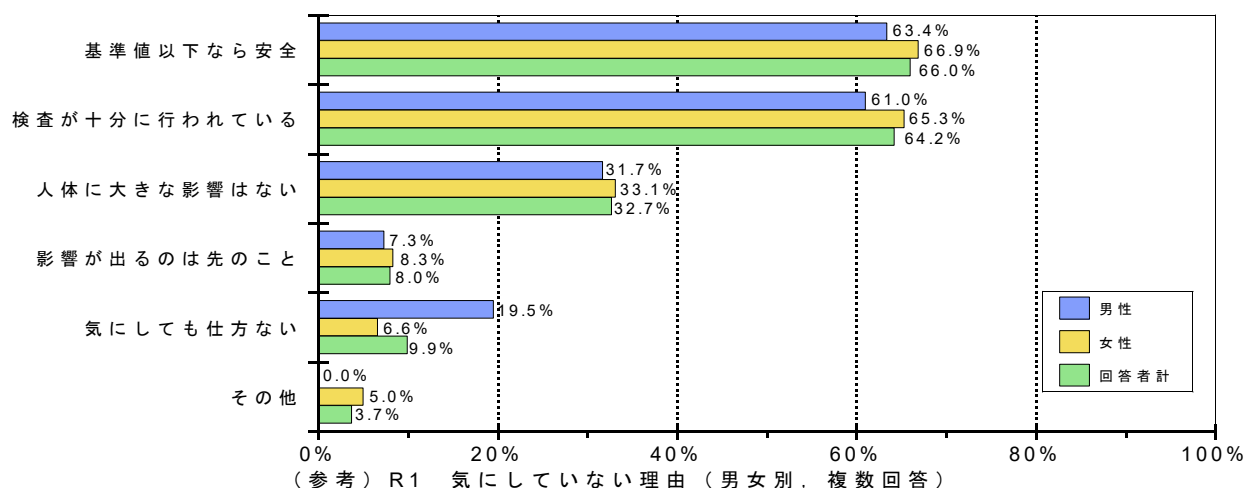
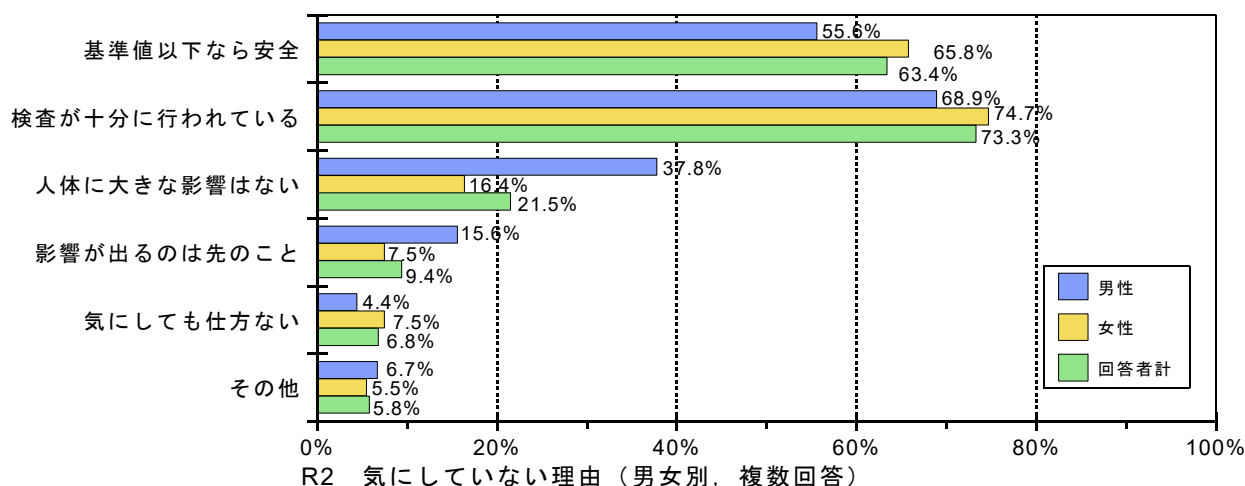
### 問13 気にしていない理由は何ですか。(複数回答)

※問11で3「あまり気にしていない」、または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

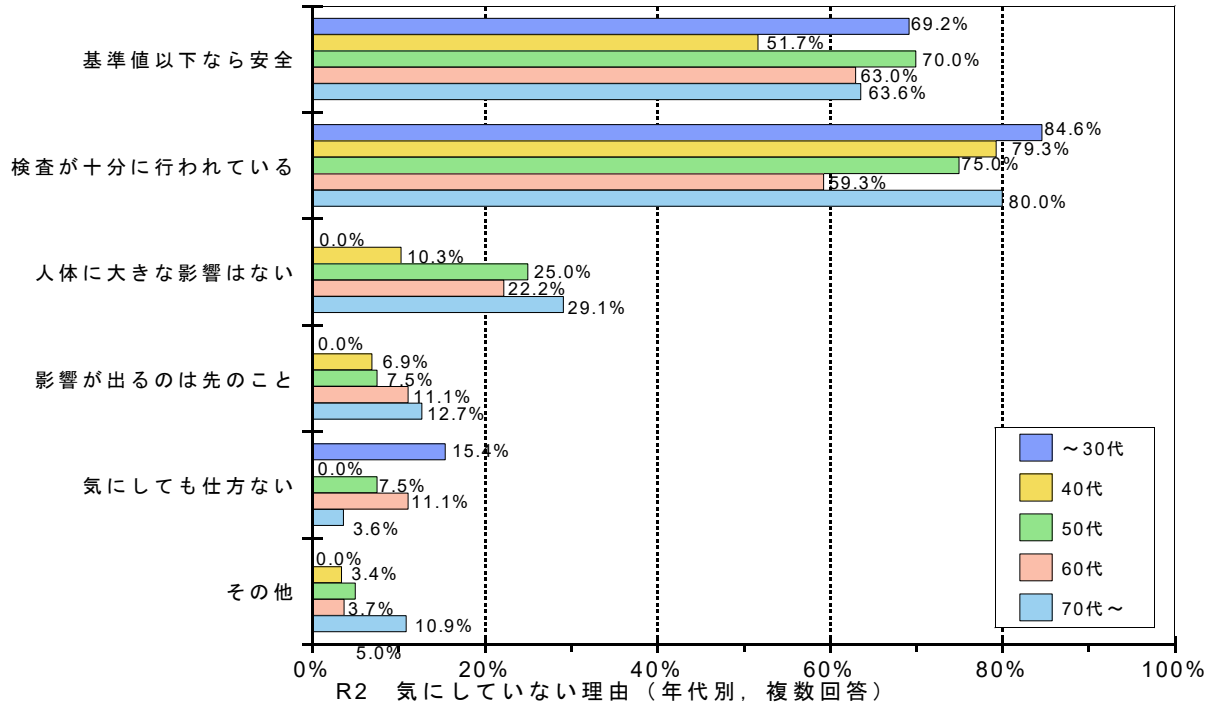
- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことから
- 5 放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから
- 6 その他

問11で「あまり気にしていない」または「気にしていない」と回答した者のうち、その理由としては、「検査が十分に行われていると思っているから」(73.3%)が最も多く、次いで「基準値以下なら安全だと思っているから」(63.4%)の順である。また、昨年度に比べ、「検査が十分に行われていると思っているから」は9.1ポイント増加し、「基準値以下なら安全だと思っているから」は2.6ポイント減少した。

男女別では「人体に大きな影響はないと思っているから」で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

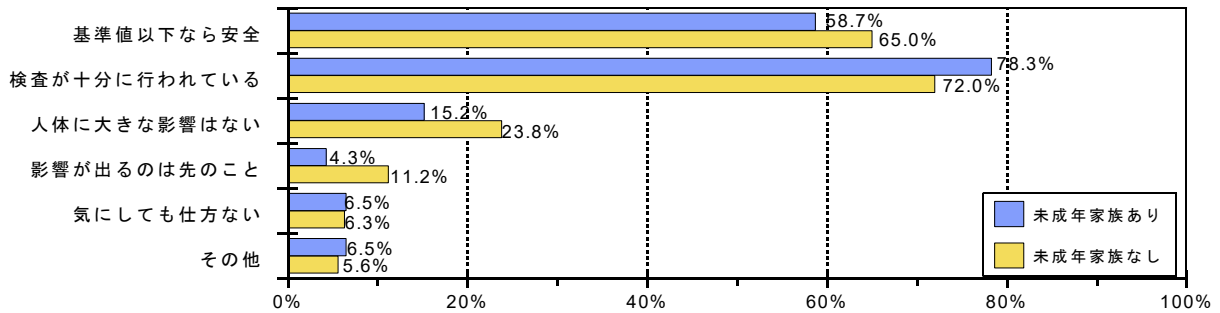


年代別では、有意差は見られない。



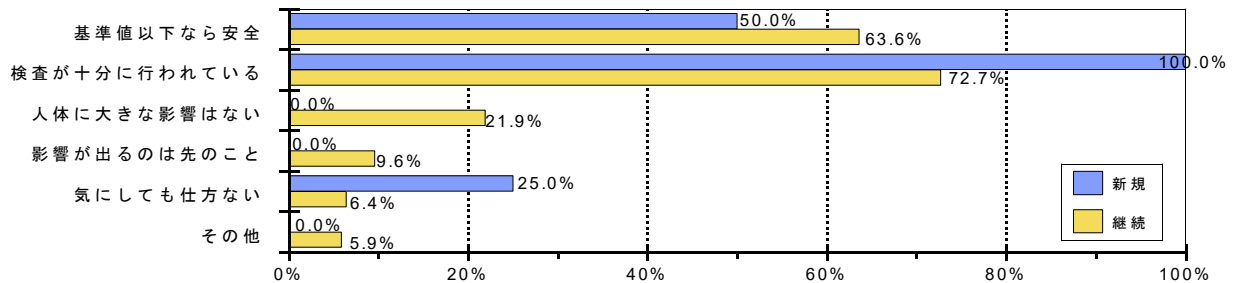
R2 気にしていない理由（年代別、複数回答）  
 ※問11で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



R2 気にしていない理由（未成年家族の有無別、複数回答）  
 ※問11で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では、有意差は見られない。



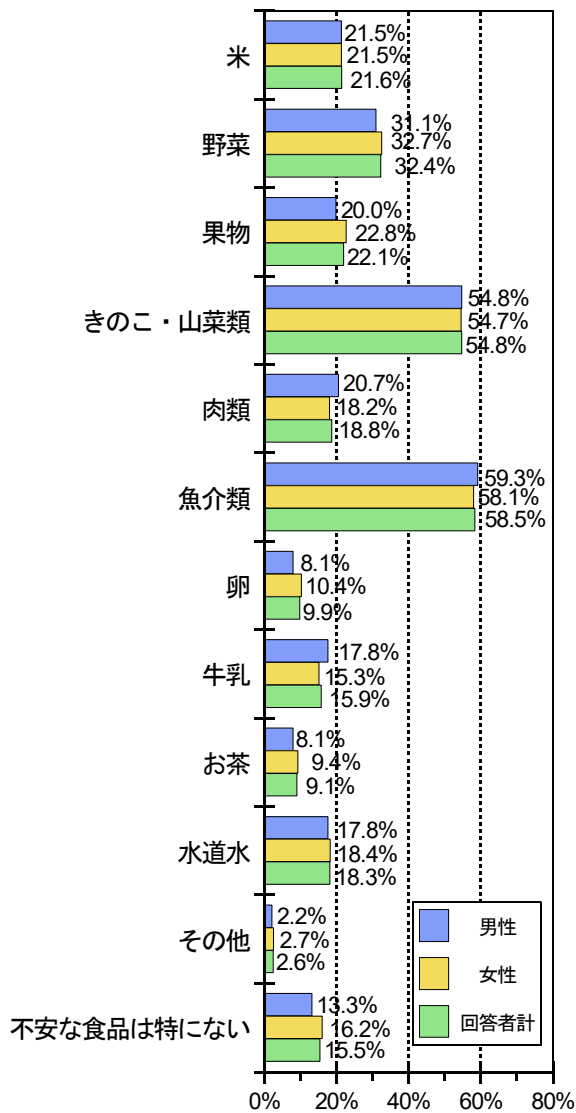
R2 気にしていない理由（新規・継続の別、複数回答）  
 ※問11で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

問 1 4 食品中の放射性物質について、現在どのような食品が不安ですか。（複数回答）

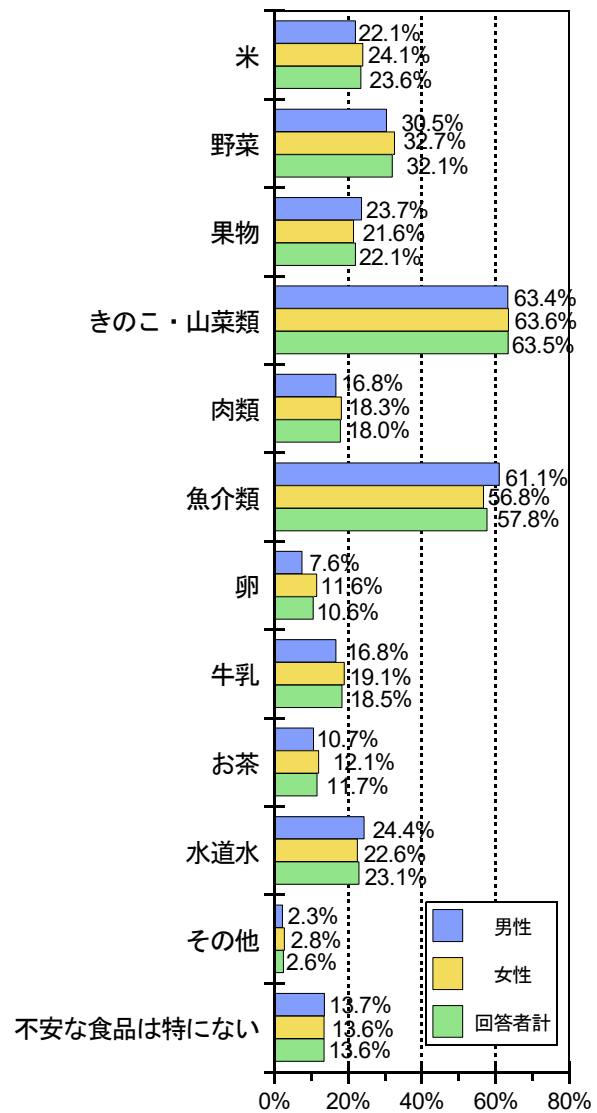
1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと・山菜類	5 肉類	6 魚介類
7 卵	8 牛乳	9 お茶	10 水道水	11 その他	12 不安な食品は特にない

不安を抱えているものは、「魚介類」(58.5%) が最も多く、次いで「きのこ・山菜類」(54.8%), 「野菜」(32.4%) の順である。昨年度同様、この3項目に対して不安を感じる人が多かったが、「きのこ・山菜類」の項目が昨年度に比べ8.7ポイント減少したため、昨年度の順位とは異なる結果となった。また、「不安な食品は特にない」(15.5%) については、昨年度に比べ1.9ポイント増加した。

男女別では、有意差は見られない。

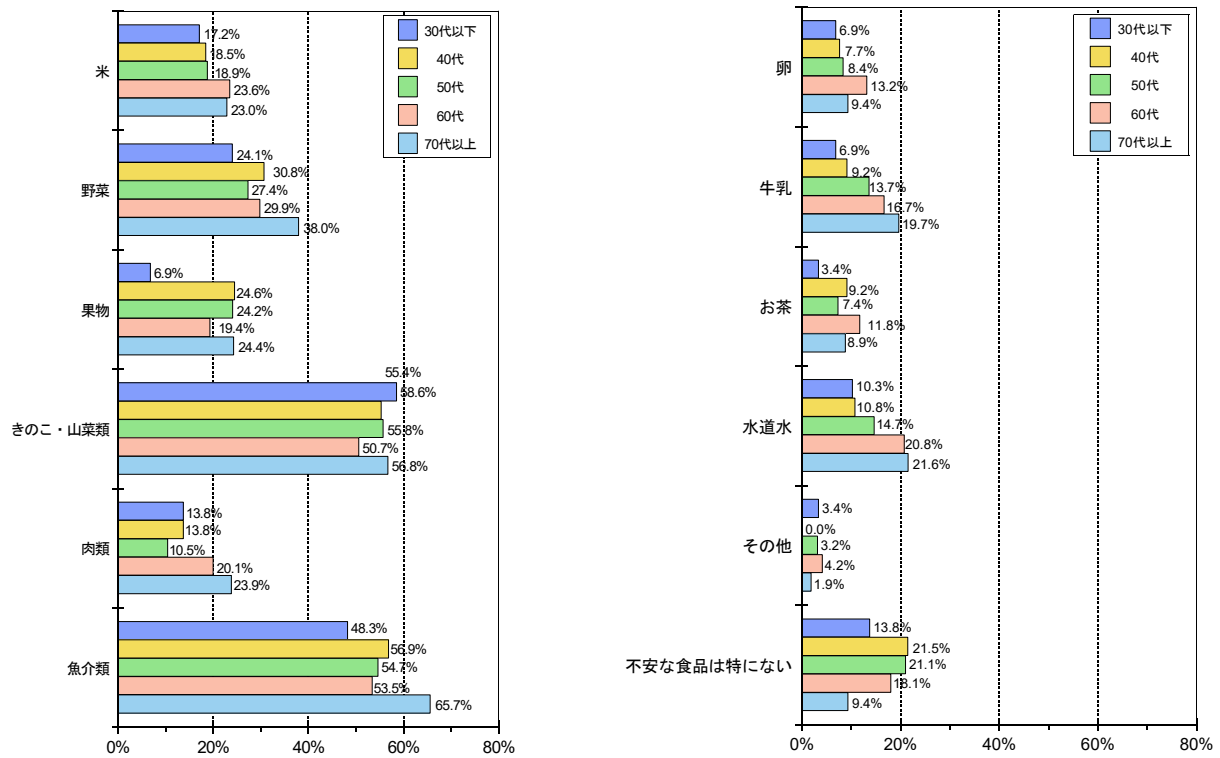


R2 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)



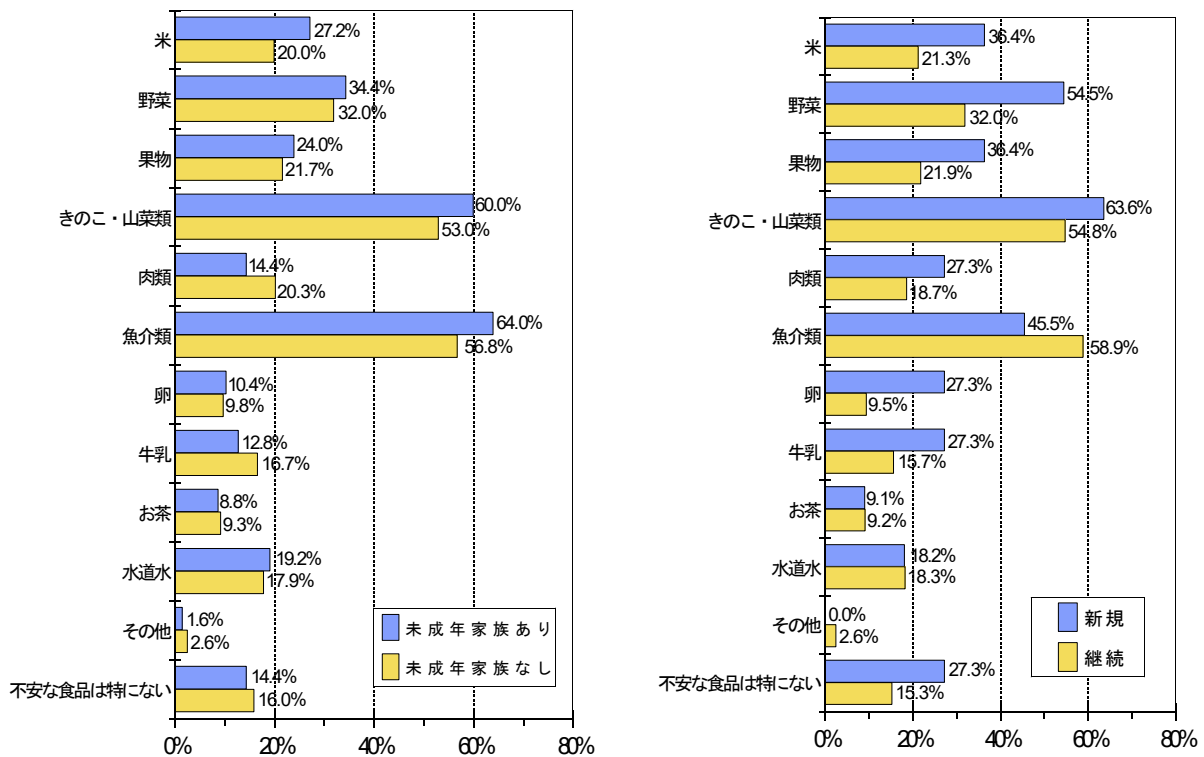
(参考) R1 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

年代別では「不安な食品は特にない」の項目で有意差が見られ、40代・50代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



R2 不安を感じる食品 (年代別, 複数回答)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。新規継続の別では、有意差は見られない。



R2 不安を感じる食品 (未成年家族の有無別, 複数回答)

R2 不安を感じる食品 (未成年家族の有無別, 複数回答)

## 問 15 不安な食品の主な理由

( ) 内は回答人数

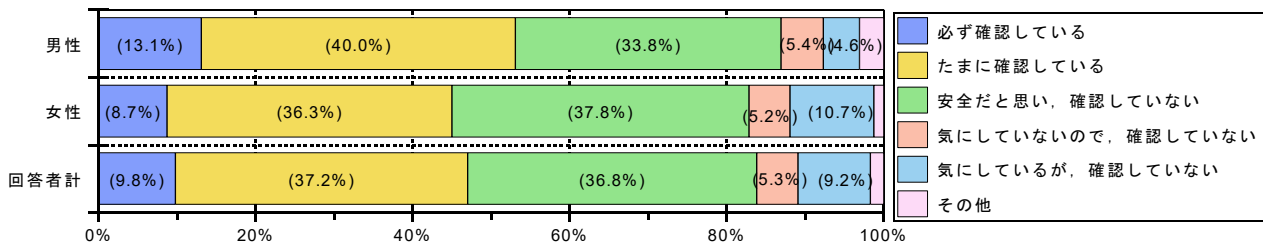
1. 米 (93)	2. 野菜 (129)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産直販売, 自主流通</li> <li>・農薬</li> <li>・水質汚染</li> <li>・大気汚染</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産直販売, 自主流通</li> <li>・生で食べるから</li> <li>・農薬</li> <li>・水質汚染</li> </ul>
3. 果物 (91)	4. きのこと山菜類 (250)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産地直売, 自主流通</li> <li>・生で食べるから</li> <li>・農薬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・検査結果</li> <li>・野生のもの</li> <li>・出荷制限</li> <li>・産直販売, 自主流通</li> </ul>
5. 肉類 (72)	6. 魚介類 (250)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・飼料)</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・輸入品</li> <li>・産地不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海水汚染</li> <li>・放射性物質</li> <li>・底物</li> <li>・回遊魚</li> <li>・貝類</li> <li>・毎日食べるものだから</li> <li>・産地</li> <li>・鮮度</li> <li>・環境汚染</li> <li>・トリチウム</li> </ul>
7. 卵 (38)	8. 牛乳 (65)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料</li> <li>・放射性物質</li> <li>・毎日食するものだから</li> <li>・生で食べるから</li> <li>・検査体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料</li> <li>・放射性物質</li> <li>・毎日飲むものだから</li> <li>・検査体制</li> <li>・産地</li> </ul>
9. お茶 (40)	10. 水道水 (75)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質</li> <li>・毎日飲むものだから</li> <li>・農薬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日飲むものだから</li> <li>・放射性物質</li> <li>・検査体制</li> <li>・トリチウム</li> <li>・水道の民営化</li> </ul>

問 16 食品を購入するとき、行政が発表している放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していますか。(単一回答)

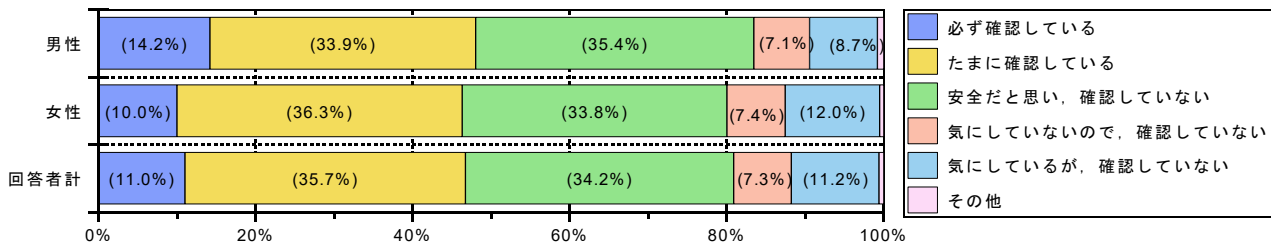
- |                               |             |
|-------------------------------|-------------|
| 1 必ず確認している                    | 2 たまに確認している |
| 3 売られているものは安全だと思っているので確認していない |             |
| 4 気にしていないので、確認していない           |             |
| 5 気にしているが、確認していない             | 6 その他       |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、「必ず確認している」(9.8%)、「たまに確認している」(37.2%)を合わせて「確認している」が47.0%で、昨年度に比べ0.3ポイント増加した。一方、「売られているものは安全だと思っているので確認していない」(36.8%)、「気にしていないので、確認していない」(5.3%)、「気にしているが、確認していない」(9.2%)は合わせて51.3%であった。昨年度の結果と同様の傾向となっている。

男女別では、有意差は見られない。

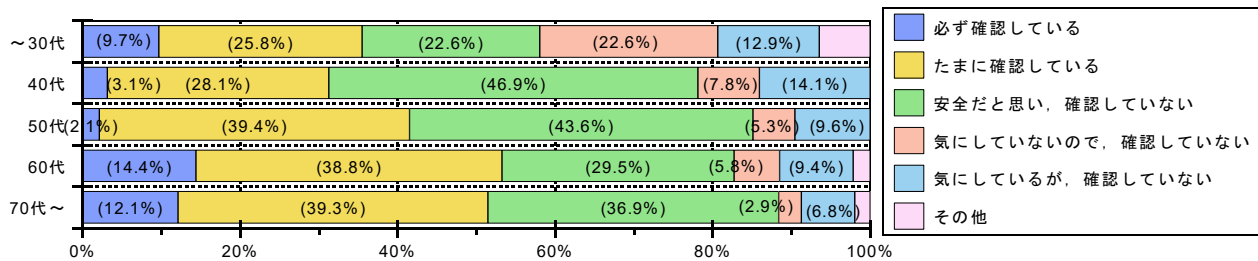


R2 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (男女別)



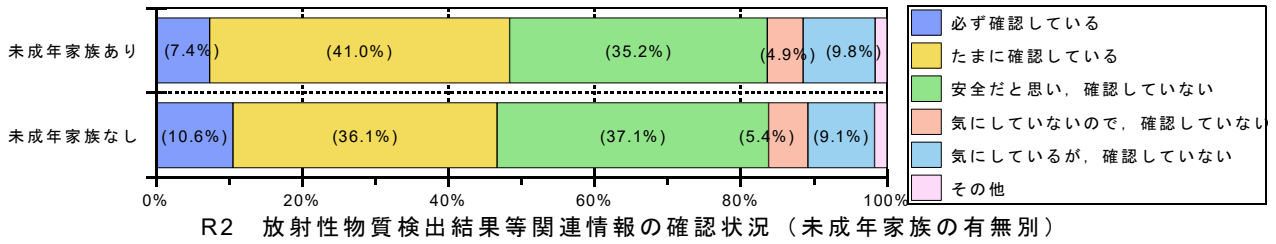
(参考) R1 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (男女別)

年代別では「必ず確認している」、「売られているものは安全だと思っているので確認していない」、「気にしていないので、確認していない」の項目で有意差が見られた。「必ず確認している」の項目では、50代の回答割合が低く、60代の回答割合が高い。「売られているものは安全だと思っているので確認していない」の項目では、60代の回答割合が低い。「気にしているが、確認していない」の項目では、30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。

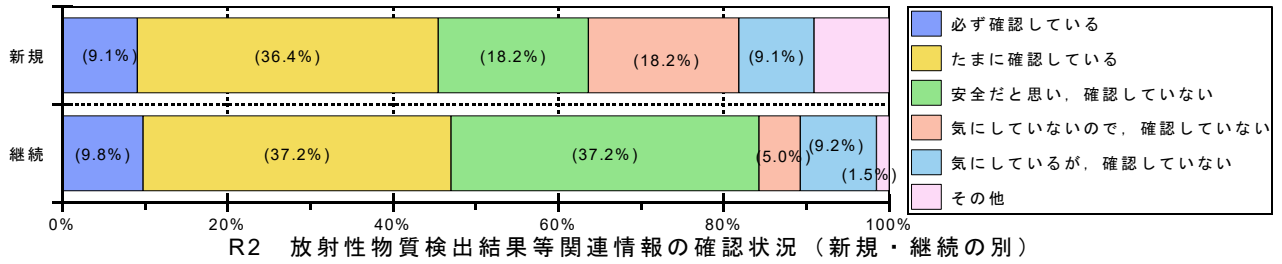


R2 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



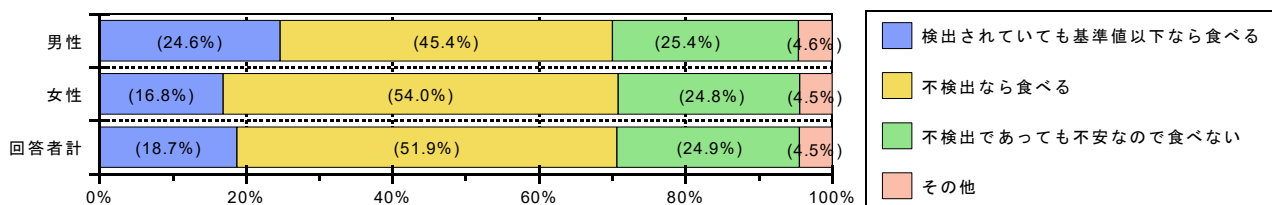


問17 一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品について、あなたならどうしますか。(単一回答)

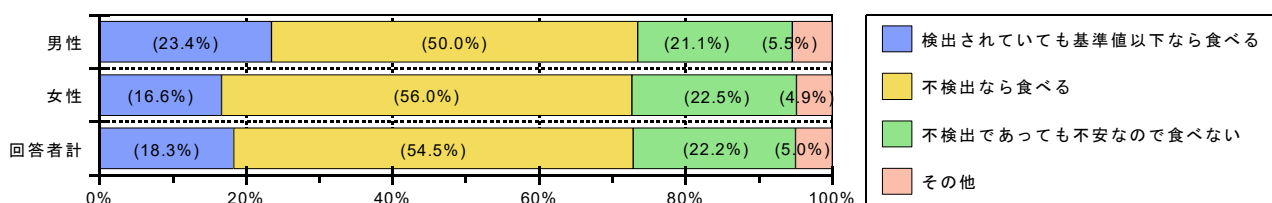
- |                      |            |
|----------------------|------------|
| 1 検出されていても基準値以下なら食べる | 2 不検出なら食べる |
| 3 不検出であっても不安なので食べない  | 4 その他      |

一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品については、「検出されていても基準値以下なら食べる」(18.7%)、「不検出なら食べる」(51.9%)を合わせて「食べる」は70.6%で、昨年度に比べ2.2ポイント減少した。

男女別では、有意差は見られない。

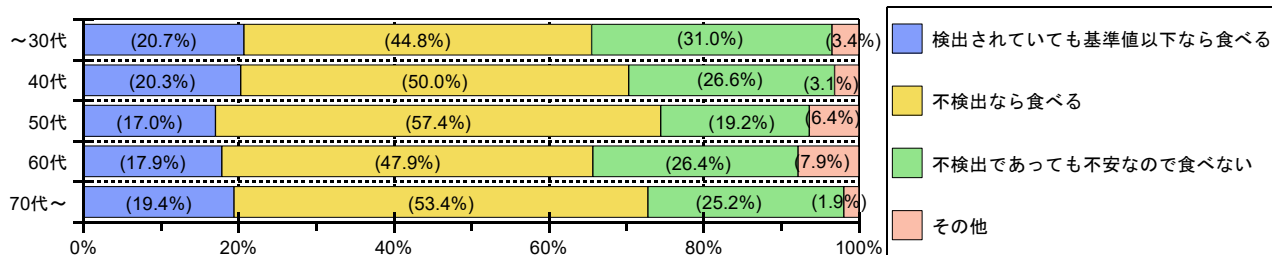


R2 一度基準値を超えた食品の購買行動(男女別)



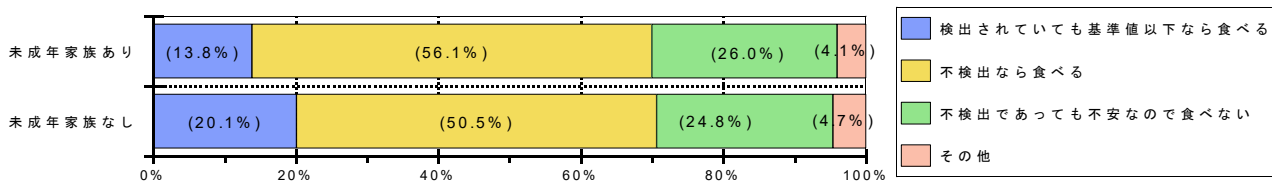
(参考) R1 一度基準値を超えた食品の購買行動(男女別)

年代別では、有意差は見られない。



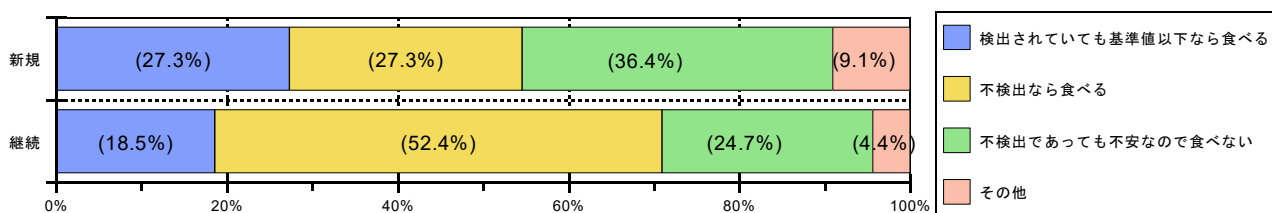
R2 一度基準値を超えた食品の購買行動(年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



R2 一度基準値を超えた食品の購買行動(未成年家族の有無別)

新規・継続の別では、有意差は見られない。



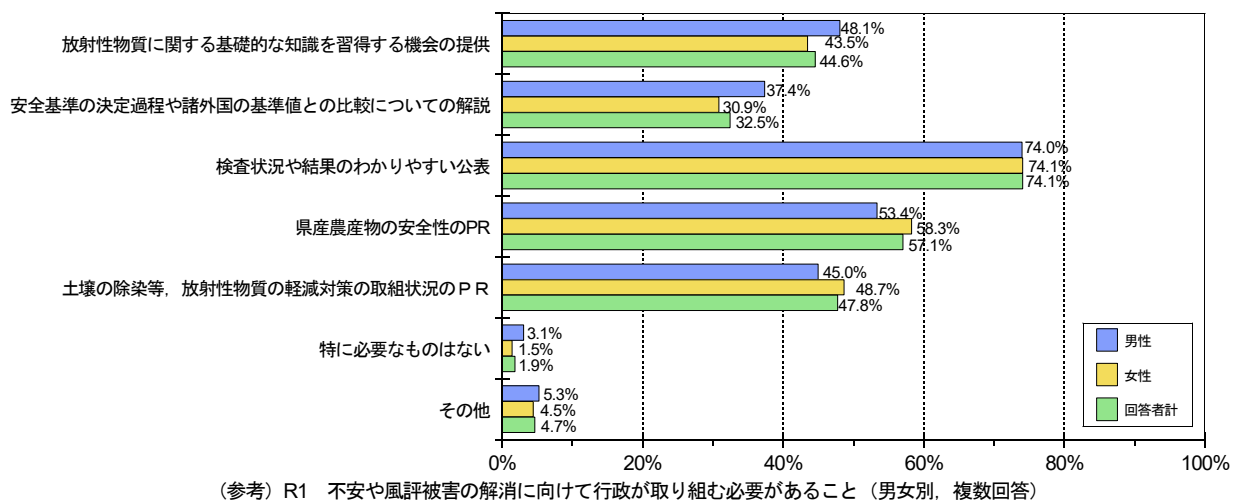
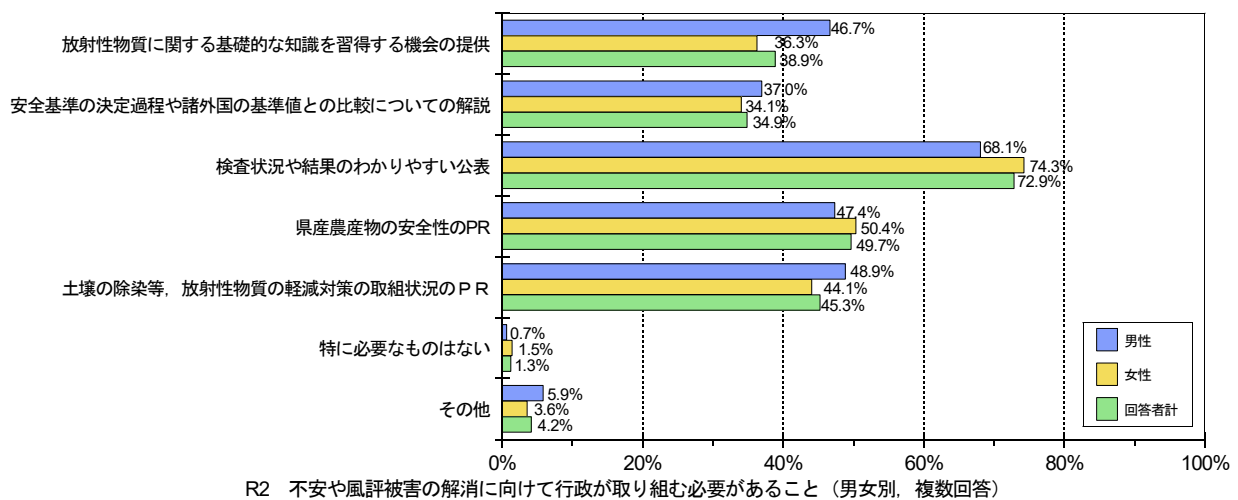
R2 一度基準値を超えた食品の購買行動(新規・継続の別)

問 1 8 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取組として必要と思うものは何ですか。（複数回答）

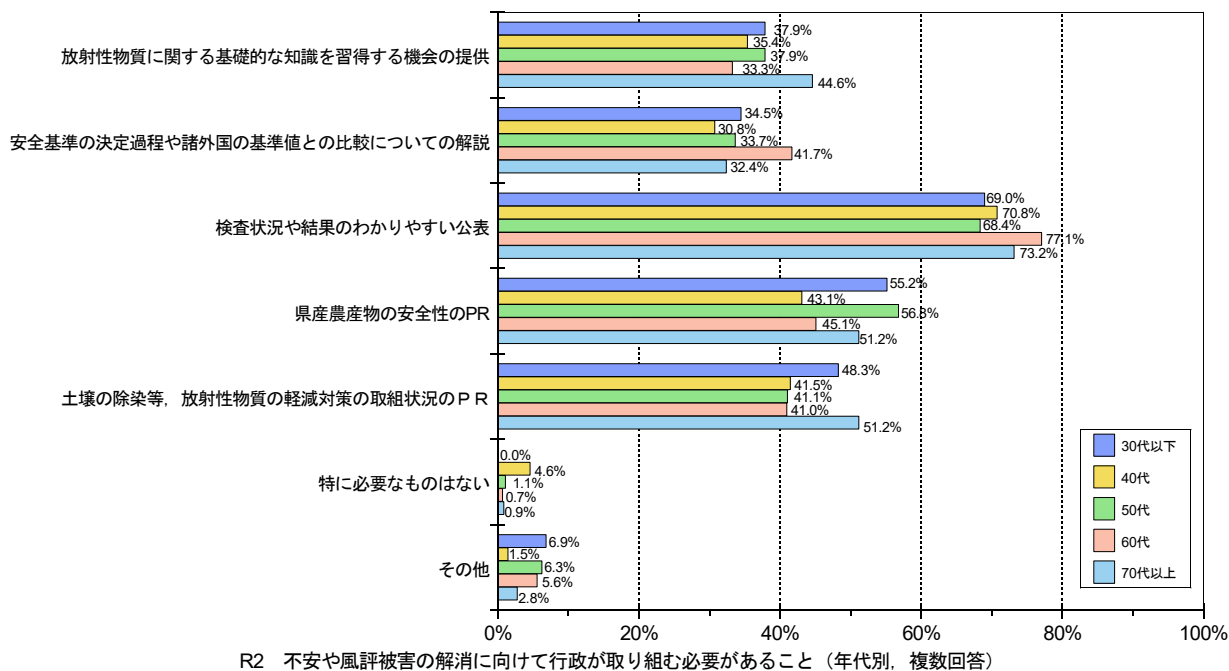
- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(72.9%)が最も多く、次いで「県産農産物の安全性のPR」(49.7%)、「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」(45.3%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(38.9%)の順である。昨年度の結果と同様の傾向となっている。

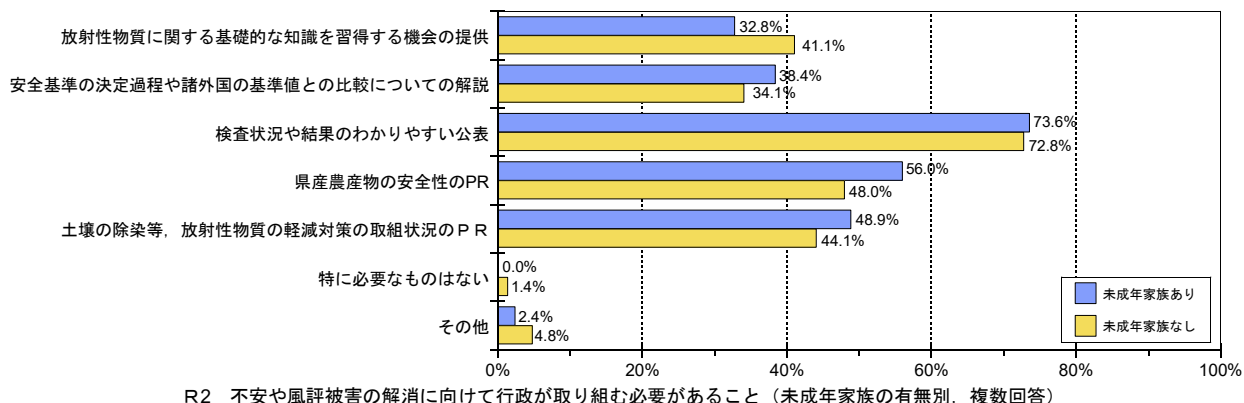
男女別では、有意差は見られない。



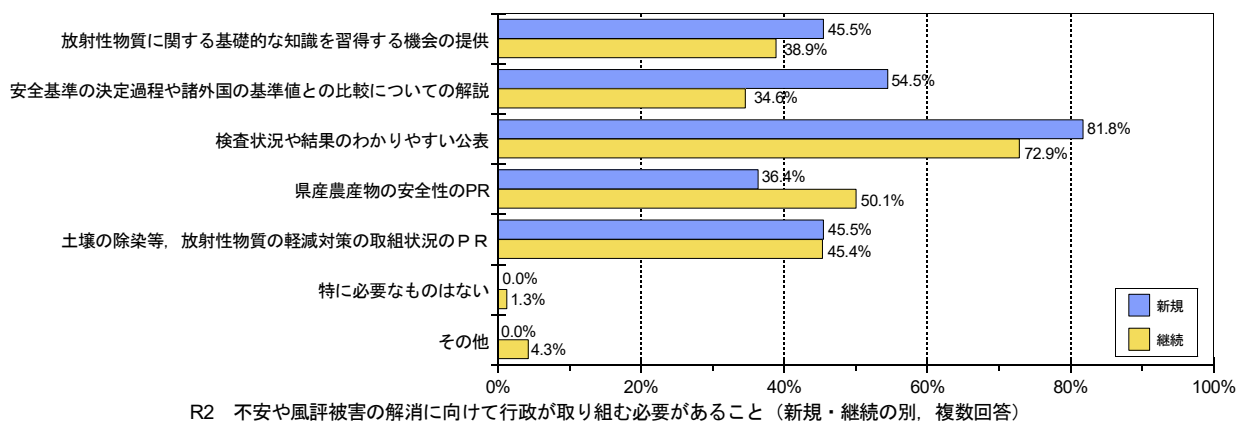
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では有意差は見られない。

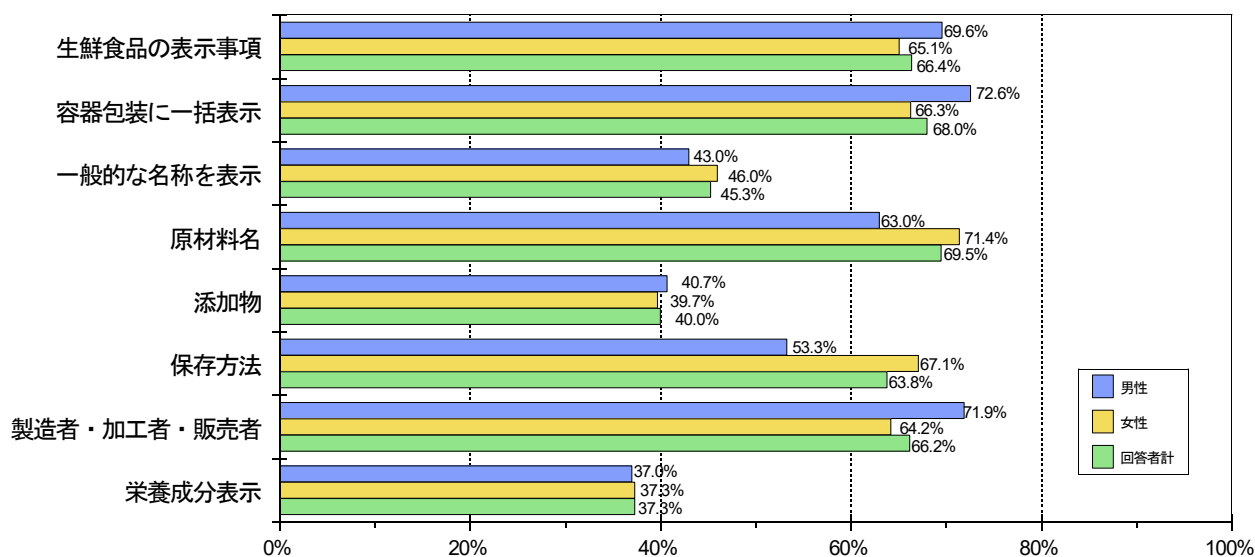


問19 食品表示について、あなたが知っていることは何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。(複数回答)(令和2年度追加)

- 1 生鮮食品の表示事項(名称, 原産地)は, 容器包装のほか, 食品の近くの見やすい場所に掲示されることがある。
- 2 加工食品の表示事項(名称, 原材料名など)は, 容器包装に一括して表示されている。
- 3 加工食品には, その商品の内容を表す一般的な名称が表示されている。
- 4 加工食品の「原材料名」欄は, 使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている。
- 5 加工食品に含まれる添加物は, 「添加物」欄を設けるか, 添加物以外の原材料と明確に区分して表示されている。
- 6 加工食品の「保存方法」欄には, 開封前の保存方法が表示されている。
- 7 加工食品には「製造者」「加工者」「販売者」などの項目名で, 表示に責任を持つ者の氏名(名称)及び住所が表示されている。
- 8 加工食品における栄養成分表示が義務化され, 一部例外を除き, すべての加工食品に栄養成分表示がされている。

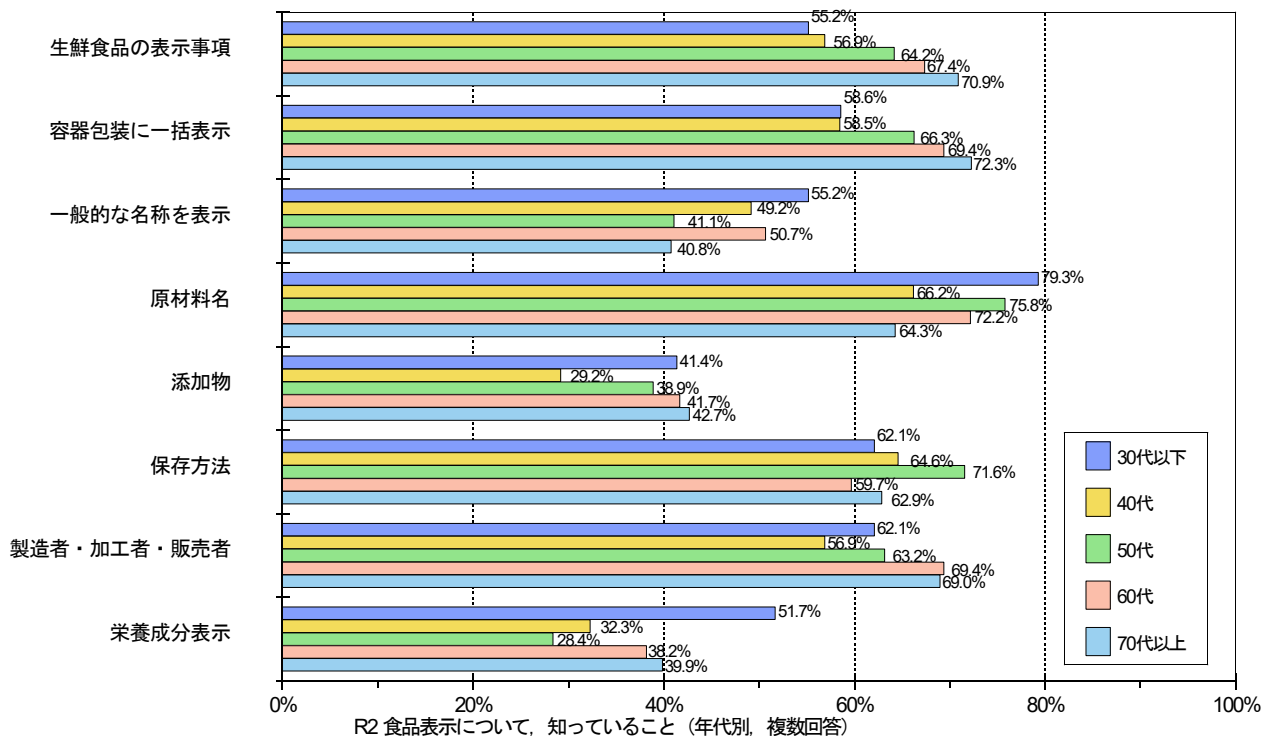
食品表示について知っていることについては、「加工食品の「原材料名」欄は, 使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている」(69.5%)が最も多く, 次いで「加工食品の表示事項(名称, 原材料名など)は, 容器包装に一括して表示されている」(68.0%), 「生鮮食品の表示事項(名称, 原産地)は, 容器包装のほか, 食品の近くの見やすい場所に掲示されることがある」(66.4%)の順である。

男女別では, 有意差は見られない。

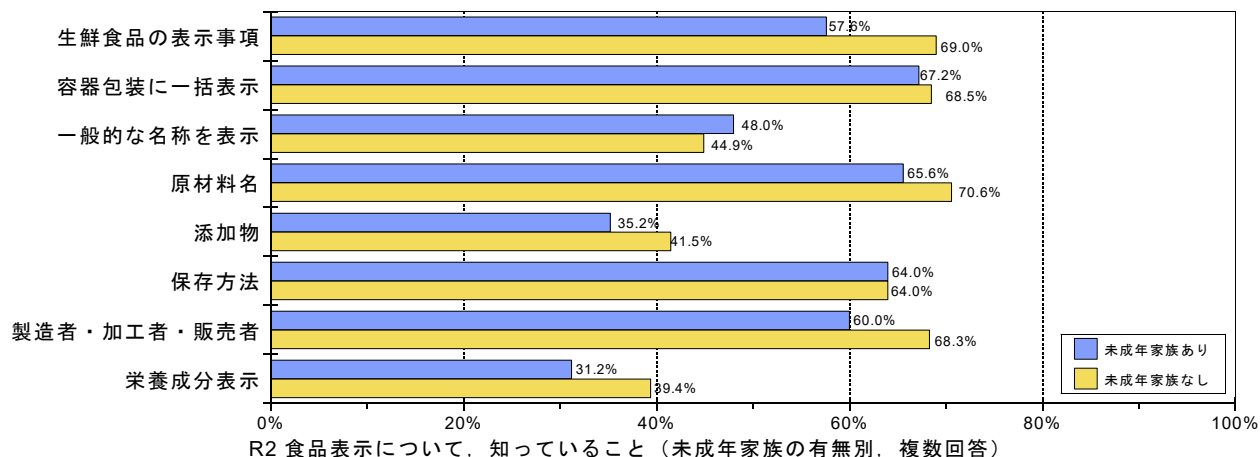


R2 食品表示について、知っていること(男女別, 複数回答)

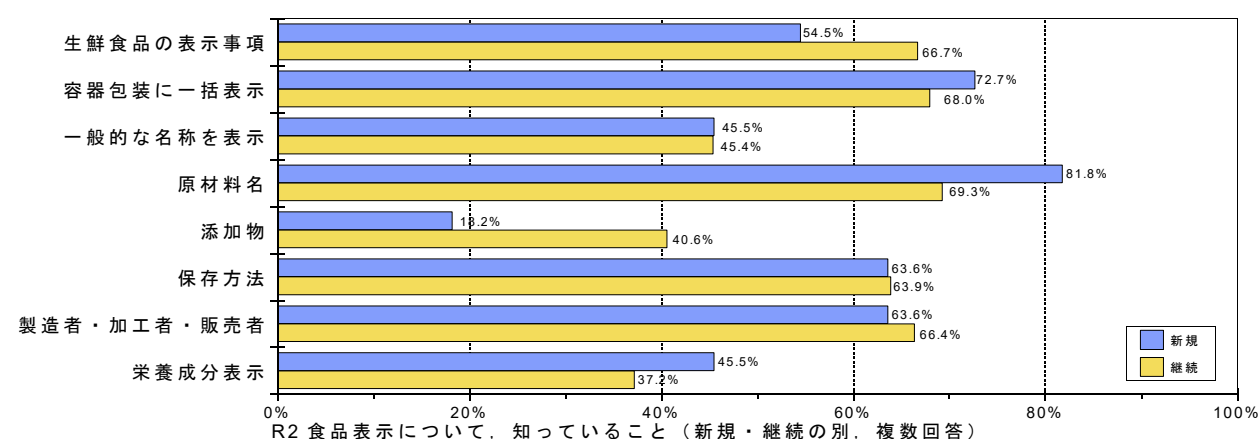
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

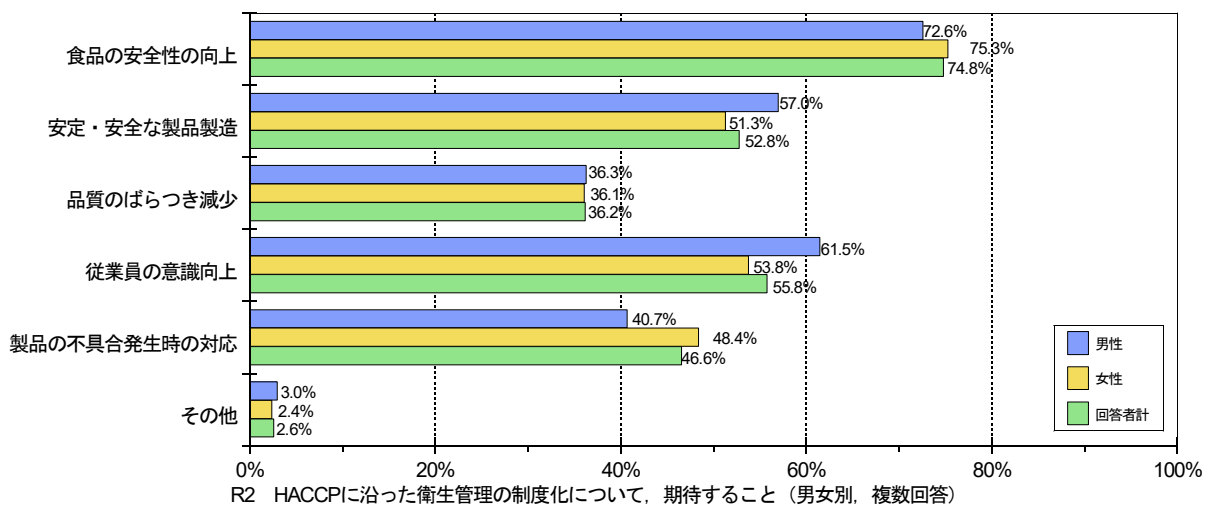


問20 食品衛生法の改正により、原則としてすべての食品等事業者（食品の製造・加工，調理，販売等）は「HACCPに沿った衛生管理」を行うことが制度化されました（令和3年6月完全施行）。「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について、あなたが期待することは何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。（複数回答）（令和2年度追加）

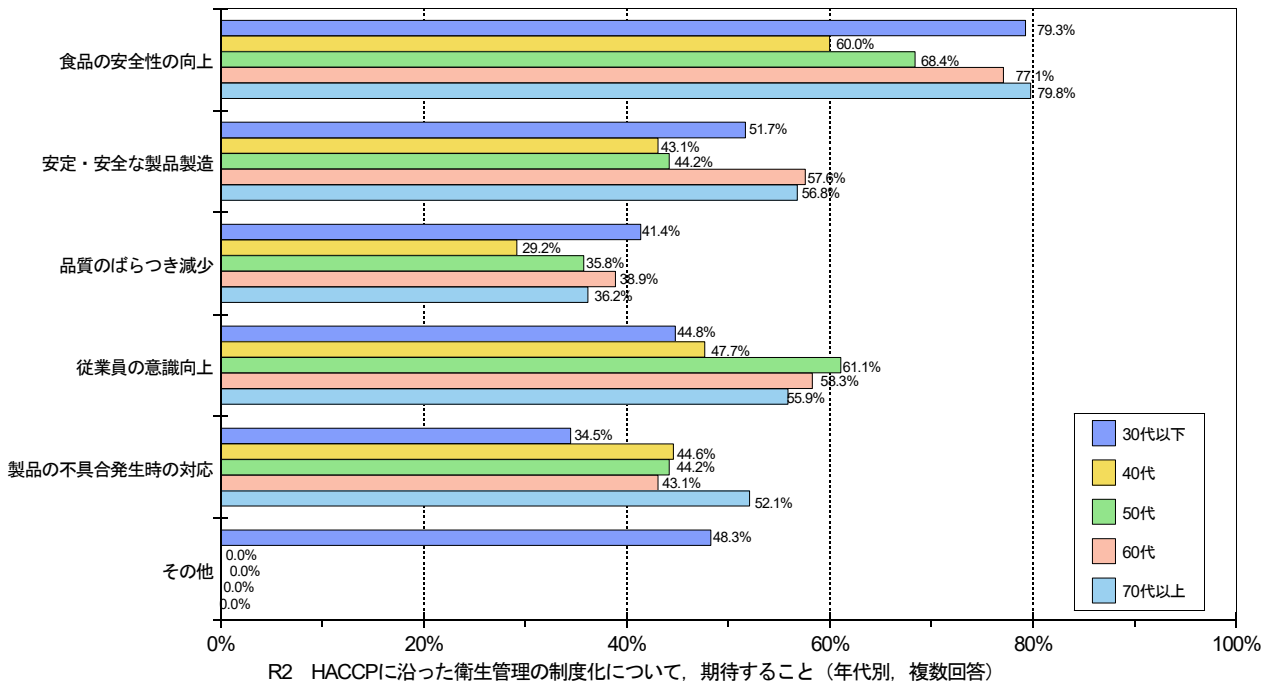
- 1 食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる。
- 2 衛生管理のポイントを明確にして、記録を残すことで、従業員の経験やカンに頼らない、安定した安全な製品が作れるようになる。
- 3 品質のばらつきが少なくなり、異物混入の可能性が減る。
- 4 食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する。
- 5 製品の不具合が発生した場合の対応が迅速に行われる。
- 6 その他

「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について、期待することについては、「食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる」（74.8%）が最も多く、次いで「食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する」（55.8%）、「衛生管理のポイントを明確にして、記録を残すことで、従業員の経験やカンに頼らない、安定した安全な製品が作れるようになる」（52.8%）、「製品の不具合が発生した場合の対応が迅速に行われる」（46.6%）の順である。

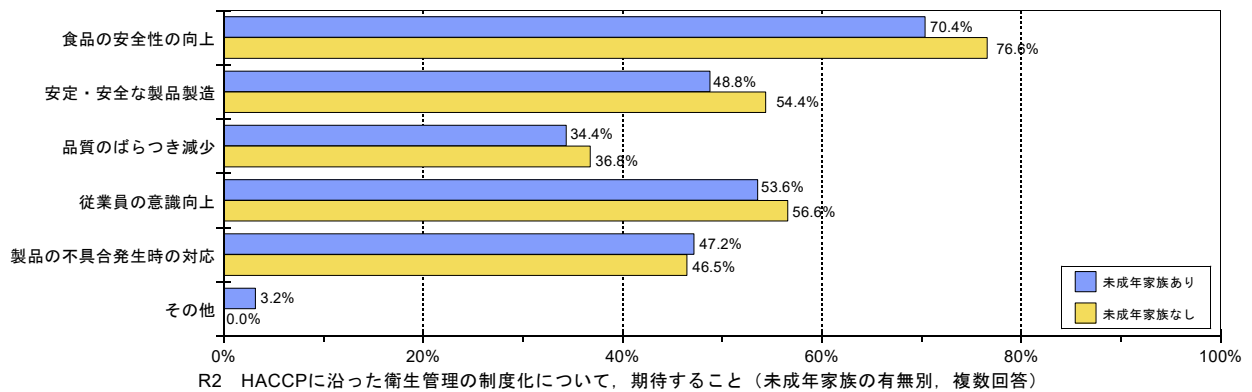
男女別では、有意差は見られない。



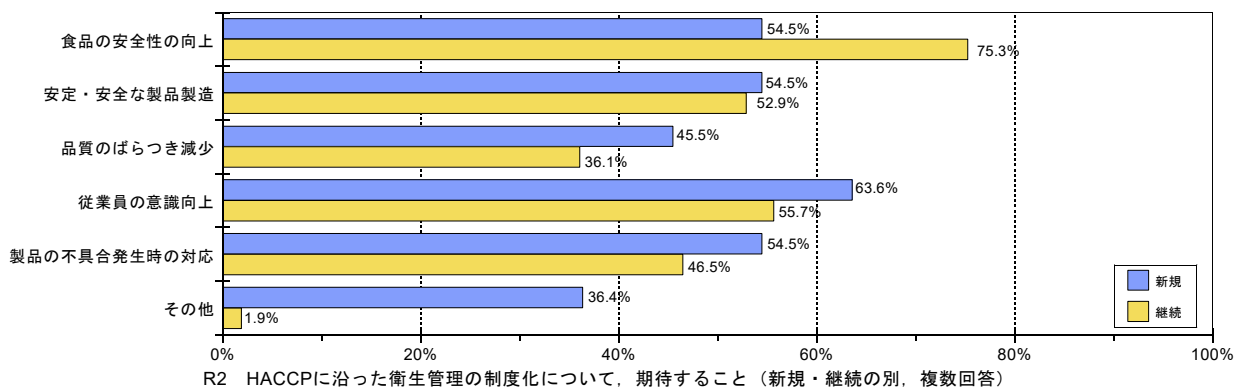
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



**問 2 1 食の安全安心全般について、あるいは国や県の施策、消費者モニター活動などで日頃感じていることなど、ご意見があればご自由にお書きください。**

計224件の記述回答があり、その内容としては、「わかりやすい情報提供」、「モニター活動について」、「新型コロナウイルス」に関する内容が多かった。また、放射性物質については、風評被害や放射性物質の検査についてなど、昨年に引き続き多くの意見が寄せられたものの、「放射性物質について、あまり気にならなくなった」という意見も見られた。食の安全安心全般については、輸入食品・食品添加物・農薬・食品表示に関する意見が多く見られた。(個別の内容は省略)